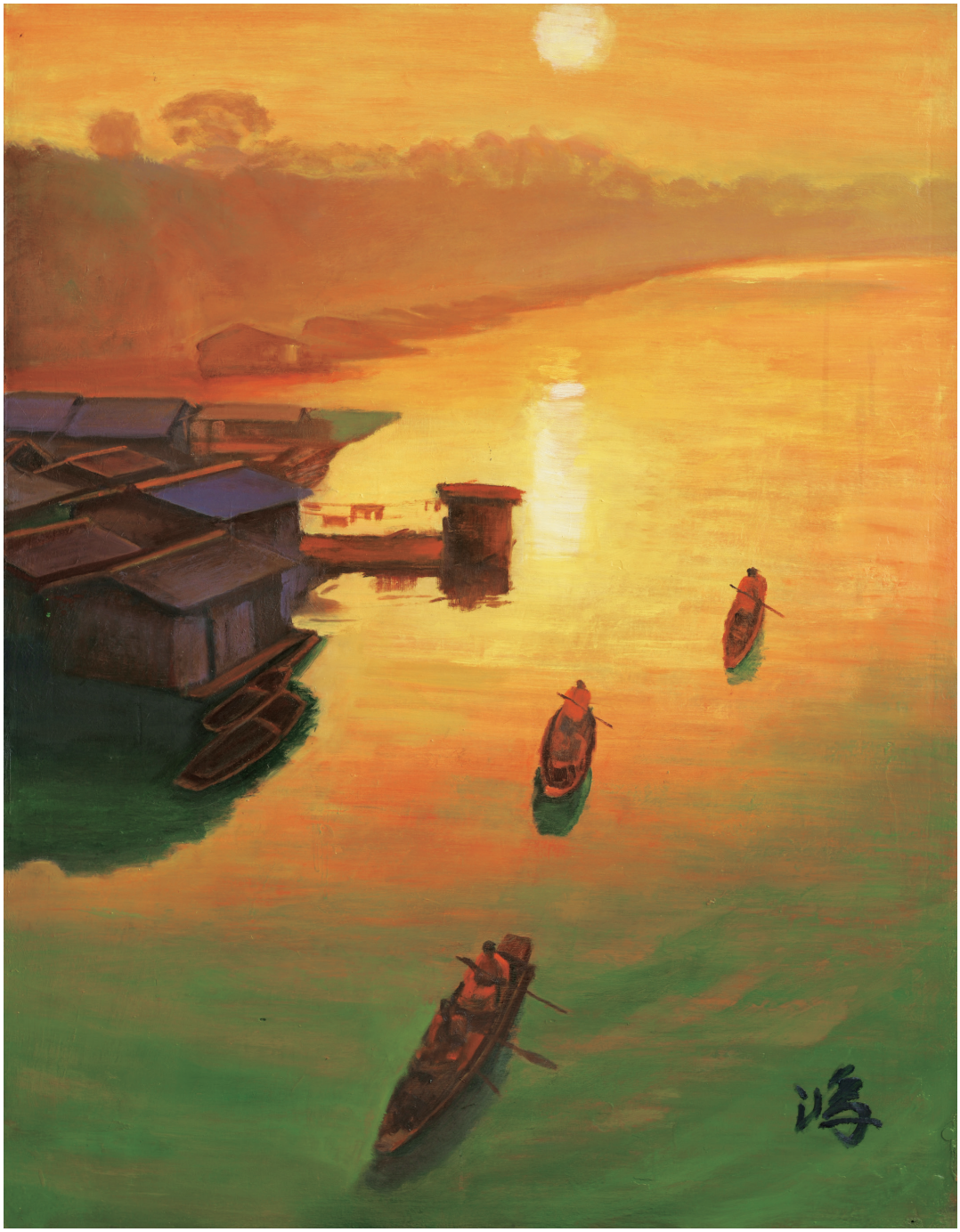
学校法人　片柳学園

日本工学院専門学校　校友会誌

かまた

発行・平成25年8月31日

No.49



表紙のことば





創立者・学園長・理事長
校友会名誉顧問
片柳　鴻

「メコン河の夕景」

この作品はある雑誌に掲載されていた写真を、私なりにアレンジして描いた作品です。今から71年前の1942（昭和17年）7月ベトナム、サイゴンのメコン河の夕景が今なお私の脳裏に深く残っており、写真を見た瞬間、当時の情景を想い出しました。当時、私はビルマ戦線に軍人として参加し、1942年1月より戦闘を開始。その年5月には一応戦いは終わり、戦闘後の諸々の整理の中で遺骨の収集が行われました。その遺骨を日本国に納骨することになり、その任務の命を私が受け日本に帰ることになりました。これは非常に名誉なことであり、帰国することになった。ビルマの首都ラングーン港を出発し、インド洋を通りマラッカ海峡を無事通過、いよいよ南シナ海に入る時、連合軍の潜水艦が多数出没し、先に進むことは危険であると判断され、航行を変更してメコン河上流に向かいました。ベトナム、サイゴン港でしばらく停泊し、状況を見ることになりました。その時の船首より眺める夕日が河一面黄金色に輝き、刻々と変化し暫く楽しむことが出来た。今なお記憶に残り懐かしく思って描いてみた作品です。

サイゴン港に停泊下船して町の中を歩くと、今までビルマ戦場の雰囲気と違い、なんの不安もなく楽しそうに生活する様子は平和そのものでした。「アオザイ」を着たスリムな女性の姿が見られベトナムの雰囲気を感じました。ベトナムは当時フランスの殖民地でフランス海軍の水兵がモダンなベレー帽を被る姿が目立ちました。その頃、フランスと日本は戦争状態ではなかったので、我々と接しても笑顔で擦れ違い、平和的なムードでありました。

南シナ海の状況が良くなったので、サイゴン港を出港し、大阪港に到着、無事に遺骨を陸軍省に納めることが出来ました。10日間ほど外泊が許され、夢にみた故郷の空気を久しぶりに味わいました。同年8月15日に大阪港を出港し、無事にビルマ、ラングーン港に到着し部隊に復帰した次第です。その時は、既にインパール作戦は開始され、再び戦争に参加し激戦に激戦を重ねた悲惨な戦闘の結果、止むを得ずわが軍は撤退を続け、1945（昭和20年）8月にビルマ国において終戦となり、1946年（昭和21年）6月6日神奈川県浦賀港において復員したのです。

Contents

表紙のことば　**名誉顧問**　片柳　鴻……表2
校友会会長　桂田 忠明……1
日本工学院専門学校 学校長　千葉　茂……2

校友会だより
第24回通常総会報告……3
「校友会ラウンジ」利用規定……6
平成24年度支部会員の集い……7
岩手県支部／福島県支部……7
栃木県支部／群馬県支部……8
福井県支部／山梨県支部……9
愛知県支部／兵庫県支部……10
鳥取県支部／島根県支部／徳島県支部……11
香川県支部／愛媛県支部……12
高知県支部／福岡・佐賀県支部……13
長崎県支部／熊本県支部……14
宮崎県支部……15
平成25年度支部事業 支部会員の集い開催予定……16

母校の歩み……17
写真でみる 校舎の変遷……32

日本工学院ニュース
同窓会のお知らせ……33
城南寮一期生の方ご連絡ください!……33
第48回 かまた祭のお知らせ……34
校友会 平成25年度「会員の集い」のお知らせ……35
平成24年度卒業証書授与式……36
平成25年度入学式……36
第47回かまた祭……37
第44回体育祭……37
キャリアサポートセンターからの報告……38
平成25年 教職員の退職者報告……39
蒲田校 学科の変遷……40
校友・交遊 集まってます!……44
入学金免除制度……46
「若きつくりびと 日本工学院卒業展2013」を開催しました!……47
かまた題字作家紹介……48
個人情報保護についての取組み……48
～先生から一言～ 学科から卒業生へ……49
会員近況メッセージ お元気ですか?……50
日本工学院専門学校教員募集のお知らせ……60
学校法人片柳学園 各学校のご案内……表3

Message



「本校と校友会発展のために」

校友会会長
桂田 忠明
放送技術部・36年卒業
セントラル電子制御株式会社・代表取締役

校友会会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、校友会活動にご理解ご協力を賜わり、ありがたく厚くお礼申し上げます。

東日本大震災から3年目を迎え、復興支援の一環として行ってきました被災地へ漁船を贈る活動は、今年4月、福島県相馬双葉漁協の岩子漁港への寄贈をもって一区切りと致します。福島県の漁業は、操業自粛中で、まだ復興には遠いところですが、漁船の寄贈は漁業関係者に大変喜ばれ、また、被災地の本校関係者への励ましにもなったことと思います。ご賛同頂きご寄付ご協力頂きました皆様に深く感謝申し上げます。

さて、教育機関の置かれている状況は、少子化・就職難等の影響で厳しいところです。本校では、即戦力となり得る教育の徹底、内外に向けて活発な教育成果の周知活動を展開しております。今年2月、パシフィコ横浜で行なわれた「若きつくりびと 日本工学院 卒業展2013」で卒業生作品、産学連携プロジェクト作品等の展示、同時に就職説明会をセット。また、蒲田校16Fに「片柳放送センター」（放送局のサテライトスタジオ機能を有する）の設置を計画し、実現に向け始動しています。校友会は、教育側面支援の一つとして、「卒業展」に在校生の学習意欲と創造意欲を高めて頂くために、カレッジ毎の優秀作品に「校友会会長賞」を贈りました。

また、本校の協力を得て、校友会の準会員でもある在校生の「県人会」を発足して頂きました。これは、早くから「校友会」との繋がり意識を持ってもらい、若い人たちの校友会への積極的な参加へ繋げて行き、活性化を図り、将来にわたるネットワークの強化を図ることを狙いとしたものです。こういった意欲的な計画を、本校と校友会が、今後も互に協力し合いながら活動して行きたいと思っております。

校友会は、今後もネットワークの強化・活性化を図り、本校の更なる発展に側面より支援すると同時に、校友会の皆様の発展にも寄与できる活動を目指して行きたいと思っております。皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

Message



校友会誌
「かまたNo.49」にむけて

学校長
千葉 茂

校友会会員の皆様、こんにちは。

日本工学院専門学校は新校舎の完成と合わせて、東京工科大学の学部を併設するようになり、医療保健学部ならびにデザイン学部において、第一期生を来春送り出すことになります。

キャンパス内に大学が併設されたことにより、本校生徒は以前の専門学校だけの時代に比べてキャンパスは拡充し、充実した図書館・大ホール・学生ラウンジや食堂といった専門学校しては他校の追随を許さない素晴らしい環境で満足度の高い学生生活を送っております。

また、教育面においても専門学校の技術教育の特徴をさらに向上させるために、カリキュラムの改訂、人間力向上を図るための放課後授業を開始しました。そして日本初となる教育設計図による教育は、期間を決めてその期間内に出来るようにならなければならないこと、理解しなくてはならないことを決め、教員と学生がそれらを共有して、階段を一段一段昇るように、着実に知識と技術を取得するために作られた学生の成長の道筋を図に表したもので、この新しい独自の取り組みは、有効な教育の方法であるという評価を、内外から頂いております。卓越した教育環境と一連の教育への取り組みが評価され、文部科学省関連の視察も数多く訪れる状況で大変注目が高まっております。文部科学省の予算を使った「成長分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」において本校が担当する「社会基盤整備分野の中核的専門人材養成プログラム開発プロジェクト」は、模範的成果を上げている事業として様々な場所で成果報告会の機会を頂いております。

このような学校全体をあげての取り組みによって、就職採用のハードルが高くなっている現在においても、本校卒業生の就職実績は維持され、我々教職員も責務を果たしていると自負しております。

さて、校友会の協力を頂き実施しております被災地に対する支援ですが、今年度は3年目の締めくくりの年となります。本校として、これまで岩手県、宮城県に漁船を寄贈してきましたが、先日福島県の漁協に日本工学院校友会として漁船を贈呈して参りました。一向に復興の進まない被災地において漁協所属の船を送り出したことで、漁民の皆様から大変感謝されました。学校としても引き続き福島県に対し、更なる支援を予定しておりますことをご報告致します。

最後になりますが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

校友会だより

第24回 通常総会 報告

日　時　平成25年6月8日（土）15:45〜17:15
於　日本工学院専門学校
31005教室（3号館10階）
出　席　42支部（支部長・副支部長）
挨　拶　桂田 忠明　会長

第24回校友会通常総会は本校講師で会員でもある相沢早苗さんの総合司会で始まりました。今年は議長に植木敏郎副会長、副議長に野里和弘副会長を選出し、6つの議案が審議され、承認されました。今年は特に2月から3月にかけて行われた地区支部長会議で事前に十分議論したこともあり、スムーズな進行となりました。次回の第25回通常総会を平成26年6月14日（土）と決めました。

通常総会に先立ち、理事長、学校長を交えての集合写真撮影のあとに、3号館16階にオープン予定の「片柳放送センター」と企業と学生のコラボレーション作品展の見学を行いました。

総会終了後は3号館12階の学生ラウンジで懇親会が行われました。今年の懇親会は、学科長のみならず、若い女性教育職員も交えて行われ、終始にこやかな雰囲気で行われました。

総会次第

1. 開　会
2. 会長挨拶
3. 名誉顧問挨拶
4. 学校長挨拶
5. 議長、副議長および議事録署名人（2名）の選出
6. 議事審議
   - 第1号議案　平成24年度事業報告
   - 第2号議案　平成24年度収支決算報告および監査報告
   - 第3号議案　平成25年度事業計画
   - 第4号議案　平成25年度収支予算
   - 第5号議案　役員改選について
   - 第6号議案　その他
7. 議長、副議長の解任
8. 副校長挨拶
9. 閉　会










◉平成24年度収支決算報告
（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越	74,842,922	会誌「かまた」等制作費	10,725,675
校友会会費	32,040,000	総会諸費用	1,603,791
会誌「かまた」広告	300,000	地区支部長会議諸経費	2,612,151
受取利息	469	支部事業費	3,920,602
		校友会ウェブサイト経費	2,007,869
		事務管理費	669,931
		人件費	1,950,746
		予備費	2,399,343
		支出の部計	25,890,108
収入の部計	107,183,391	次年度繰越	81,293,283

◉平成25年度予算書

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前期繰越	81,293,283	会誌「かまた」等制作費	11,700,000
校友会会費	31,800,000	総会諸費用	2,000,000
会誌「かまた」広告	400,000	地区支部長会議諸経費	2,700,000
受取利息	500	支部事業費	6,600,000
		校友会ウェブサイト経費	2,500,000
		事務管理費	1,500,000
		人件費	4,900,000
		予備費	3,000,000
		支出の部計	34,900,000
収入の部計	113,493,783	次年度繰越	78,593,783

校友会通常総会の詳細

1. 開会宣言：清田 茂信　副会長（熊本県支部長）
2. 会長挨拶：桂田 忠明　会長
3. 名誉顧問挨拶：片柳　鴻　名誉顧問
4. 学校長挨拶：千葉　茂　学校長
5. 議長、副議長、書記および議事録署名人の選出
   - ［議長］　植木 敏郎　副会長（新潟県支部長）
   - ［副議長］　野里 和弘　副会長（青森県支部長）
   - ［議事録署名人］　中澤　広（近畿支部長）
   - ［議事録署名人］　森崎 俊彦（大分県支部長）
   - ［書記］　事務局
6. 議案審議

【第1号議案】平成 24 年度事業報告
①校友会誌および校友会のしおり発行
②通常総会・会員の集いの開催
③Webサイトの運営と企画

【第2号議案】平成24年度収支決算報告および監査報告
①収支決算報告
②監査報告

【第3号議案】平成 25 年度事業計画（案）
①校友会誌および校友会のしおり発行
②通常総会・会員の集いの開催
③Webサイトの運営について
④質疑応答

【第4号議案】平成 25 年度収支予算事業計画
平成 25 年度収支予算について説明。

【第5号議案】役員の改選について
役員の任期満了のため改選

【第6号議案】その他
①校友会活動について
②次回通常総会の日程について

7. 議長、副議長の解任
8. 副校長挨拶　遠山 一明　副校長
9. 閉会宣言　奥川　宏　副会長（静岡県支部長）

役員の改選について

1. 日本工学院専門学校校友会会則 第16条「役員及び代議員の任期」により、以下の方々が選出された。
   1）会長［再］桂田 忠明
   2）副会長［再］野里 和弘　［再］植木 敏郎
   ［再］奥川　宏　［再］清田 茂信
   ［新］白石　脩
   3）幹事　①常任幹事
   ［再］工藤俊一郎　［再］藤本 昌之
   ［再］遠山 一明　［再］佐藤　充
   ［再］只埜 洋樹
   ②会計幹事
   ［再］郷治 正雄　［再］猪口 眞美
   4）会計監査［再］平井 正博　［再］廣瀬 憲治

2. 日本工学院専門学校校友会会則第18条「名誉顧問及び顧問」により、顧問を委嘱した。

【顧問】平松 義雄　大谷 正勝　松尾 勇市
喜屋武光信　佐藤 博治　大島 一博
大石 清彦

3. 日本工学院専門学校校友会会則 第16条「役員および代議員の任期」及び日本工学院専門学校校友会役員選出に関する細則 第5条により各地区より選出された地区幹事が報告された。

【地区幹事】
○北海道・東北　地区：［再］阿部富美雄
○関東・甲信越　地区：［再］廣瀬 憲治
○東海・北陸　地区：［再］石黒　明
○近畿・中国・四国 地区：［新］中澤　広
○九州・沖縄　地区：［再］穴見　誠

校友会通常総会等の様子

平成25年6月8日（土）に日本工学院専門学校において、全国42支部から校友会会員約14万人を代表する支部長が母校に来校され、第24回通常総会が開催されました。

▶ 記念写真撮影　14:50～15:00

3号館1階のエントランスホールで片柳理事長と千葉学校長を囲み記念写真を撮りました。



▶ 見学会　15:00～15:30

理事長自ら3号館16階に建設中の「片柳放送センター」をご案内いただくとともに、12号館1階ギャラリーで展示されている「企業と学生とのコラボレーション作品」を見学いたしました。





▶ 通常総会　15:45～17:15

今年の通常総会は、議長に植木副会長、副議長に野里副会長が選出され、6つの議案について審議が行われました。









▶ 懇親会　17:30～19:00

12階の学生ラウンジにおいて、千葉校長はじめ教職員の方々を交え懇親会が行われました。







「校友会ラウンジ」利用規定

1 利用資格

① 日本工学院専門学校校友会会員および準会員。
ただし、準会員のみでの使用は出来ません。準会員が利用を希望する場合は、教職員が責任者となり、一切の管理責任を負っていただきます。
② 校友会会員が代表者または責任者である団体・グループ。
③ 学校法人片柳学園の教職員。
④ 日本工学院専門学校校友会会長が認めた者および団体・グループ。

2 利用目的

会議、待ち合わせ、親睦会など様々な目的で使用できますが、目的によっては、校友会事務局の判断でお断りする場合があります。
ただし、利益を得ることを目的とした事業ならびに政治活動・宗教活動を伴う集会には利用できません。

3 校友会ラウンジ概要

○面積：約 116㎡　　○定員：40 名
利用可能な設備:OHP、プロジェクター（パソコン・DVD接続可）、スクリーン、ホワイトボード、DVD、冷蔵庫、電気ポット、急須、湯飲茶碗、コップ。
設備の利用については、無料です。

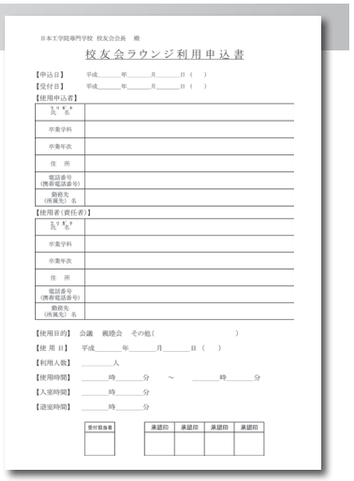
4 利用時間

平日　10:00～17:00
学校が休みの時には、利用できません。
利用する場合は2週間前までに校友会事務局に届け、校友会事務局の承認を得なければなりません。また、校友会行事のある場合はこれを優先といたします。
上記時間以外の利用に関しては、校友会事務局にご相談願います。

5 申し込み方法

所定の申込用紙に必要事項を記入の上、校友会事務局にE-mail、FAX、郵便等でご提出願います。先着順で申し込みを受け付けます。ただし、校友会行事等を優先とさせていただくため、使用をお断りする場合がありますので、予めご了承願います。

●申込用紙は校友会事務局
☎03-3732-8183
にご請求いただくか
ホームページをご覧ください。
http://www.kouyukai.net/


日本工学院専門学校　校友会会長　殿

校友会ラウンジ利用申込書

【申込日】　平成＿＿年＿＿月＿＿日（　）
【受付日】　平成＿＿年＿＿月＿＿日（　）
【使用申込者】
氏名
卒業学科
卒業年次
住所
電話番号（携帯電話番号）
勤務先（所属先）名
【使用者（責任者）】
氏名
卒業学科
卒業年次
住所
電話番号（携帯電話番号）
勤務先（所属先）名
【使用目的】　会議　親睦会　その他（　　）
【使用日】　平成＿＿年＿＿月＿＿日（　）
【利用人数】　＿＿人
【使用時間】　＿＿時＿＿分　～　＿＿時＿＿分
【入室時間】　＿＿時＿＿分
【退室時間】　＿＿時＿＿分
受付担当者
承認印　承認印　承認印　承認印

「校友会について」より校友会ラウンジ利用規定及び使用申込（PDF）をダウンロードしてください。

校友会だより

平成24年度 支部会員の集い

平成24年度支部会員の集い（総会・懇親会）は、全国で約300人が集い、さまざまな趣向で開催されました。自己紹介、近況報告、役員の改選、懇親会での情報交換など、各支部とも有意義で実りある会合内容が報告されています。旧友との久々の再会となる懇親会では懐かしい思い出話にも花が咲き、和やかで充実した歓談のひとときがもたれました。今後も世代をこえた地元校友とのネットワークづくりに、皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

岩手県支部

■設　立：平成2年10月23日　　■登録会員：811名
■支部長：阿部 富美雄　　■E-mail iwate@kouyukai.net

第12回 岩手県支部会員の集い

開催日：平成24年7月28日（土）　出席者：12名
会　場：盛岡市「りすとらんて・とっと」



●支部総会
1. 支部長挨拶
　◇支部長の挨拶 開会謝辞　◇出席者への謝辞
2. 支部活動報告
　◇昨年の激励会の報告　◇支部のブログ開設について
3. 会則・役員改選
　◇支部長から現役員の再任が提案され、承認された。
4. 校友会事務局
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告

●懇親会



福島県支部

■設　立：昭和63年11月18日　　■登録会員：1551名
■支部長：荒 俊之　　■E-mail fukushima@kouyukai.net

第12回 福島県支部会員の集い

開催日：平成24年10月6日（土）　出席者：18名
会　場：いわき市「美味饗宴　網元」



●支部総会　18:00～20:30
1. 支部長の挨拶　開催謝辞
　◇出席者への謝辞
2. 学校・校友会挨拶（猪口）
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3. 支部活動報告（荒支部長）
　◇2年間の活動報告
4. 会則・役員改選
　◇２年間の活動報告
5. 次回開催地の決定
6. その他
　◇学校見学会の再計画





●激励会
支部総会の後、激励会に入り、「これからも震災にめげずに頑張ろう」と意気込みを新たにし、皆一様に有意義な時間を過ごしました。

栃木県支部

■設　立：昭和63年8月27日　■登録会員：1402名
■支部長：川岸 稔　■E-mail tochigi@kouyukai.net

第12回 栃木県支部会員の集い

開催日：平成24年7月15日(日)　出席者：9名
会　場：宇都宮市「ホテル 丸治」









●見学会　12:00～
◇温泉トラフグ養殖場見学



●総会・講演会　16:00～
1.支部長挨拶
◇開催謝辞　◇出席者への謝辞
2. 学校および校友会からの報告（猪口）
◇学校としての出来事
学校の現況説明
◇校友会としての出来事
校友会活動の報告
3. 支部活動報告（川岸支部長）
◇これまでの支部会員の集いの紹介
4. 会則・役員改選



●懇親会
「かまた会」の話題や北海道校、八王子校設立の秘話など興味津々の話が次々に披露され、時間が過ぎるのを忘れるほどでした。

群馬県支部

■設　立：昭和63年7月4日　■登録会員：1543名
■支部長：山口 剛　■E-mail gunma@kouyukai.net

第12回 群馬県支部会員の集い

開催日：平成24年12月1日(土)　出席者：17名
会　場：前橋市「ロングサンドホテル　シェスナガ」









●支部総会　16:00～17:30
1.開会挨拶及び支部長報告(山口支部長)
◇出席者への謝辞　◇2年間の支部活動　◇第23回通常総会
◇地区支部長会議　◇校友会ホームページ　◇群馬県支部ブログ
2.役員改選
3.事務局報告(村林)
◇学校としての出来事
学校の現況説明
◇校友会としての出来事
校友会活動の報告
4.自己紹介
◇近況報告





●懇親会
17:30～19:30

●マジックショー
19:30～20:30

福井県支部

■設　立：平成4年11月27日　■登録会員：165名
■支部長：笈田 義和　■E-mail fukui@kouyukai.net

第11回 福井県支部会員の集い

開催日：平成24年7月29日(日)　出席者：4名
会　場：福井市「越前つるきそば本店」











●支部総会　17:00～17:45
1. 開会挨拶（笈田支部長）
2. 支部長挨拶
◇出席者への謝辞、近況報告　◇今回の開催経緯
◇支部活動の展望
3. 校友会事務局からの報告
◇学校としての出来事
学校の現況説明
◇校友会としての出来事
校友会活動の報告
4. 支部会則の変更および役員改選



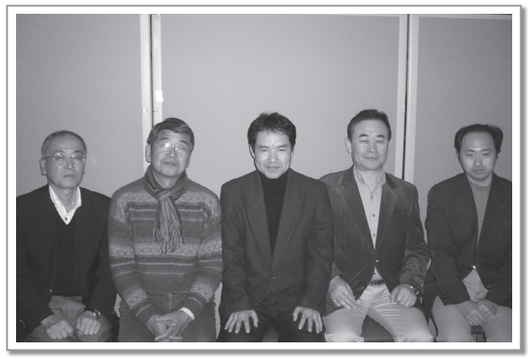
●懇親会　18:00～20:30

山梨県支部

■設　立：平成6年5月28日　■登録会員：975名
■支部長：名取 宏典　■E-mail yamanashi@kouyukai.net

第10回 山梨県支部会員の集い

開催日：平成24年12月8日(土)　出席者：5名
会　場：甲府市「レストラン ワインクラブ」









●支部総会　15:00～16:00
1.開会挨拶及び支部活動報告(清田支部長)
◇出席者への謝辞　◇2年間の支部活動　◇第23回通常総会
2.自己紹介
3.役員改選
4.提案事項
5.事務局報告(村林)
◇学校としての出来事
学校の現況説明
◇校友会としての出来事
校友会活動の報告



●懇親会　16:00～18:00

愛知県支部

■設　立：平成4年11月12日　■登録会員：346名
■支部長：石川 隆行　■E-mail aichi@kouyukai.net

第11回 愛知県支部会員の集い

開催日：平成24年10月21日(日)　出席者：11名
会　場：名古屋市「自然や ～大地が厨房～」







●支部総会　13:00～14:00
1. 開会挨拶（石川支部長）
　◇出席者への謝辞
2. 石川支部長報告
　◇2年間の支部活動
　◇第 23 回通常総会および
　　地区支部長会議
　◇学校の新施設　◇その他
3. 役員改選（会則改正は無し）
4. 事務局報告（村林）
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
5. 会員の要望事項など





●懇親会　14:00～17:00



兵庫県支部

■設　立：平成5年5月28日　■登録会員：198名
■支部長：新庄 吏奈　■E-mail hyogo@kouyukai.net

第10回 兵庫県支部会員の集い

開催日：平成24年10月14日(土)　出席者：5名
会　場：神戸市「中国茶専門店 彩香(サイシャン)」







●支部総会　13:00～14:00
1.開会挨拶(松本副支部長)
　◇出席者への謝辞
2.松本副支部長報告
　◇第23回通常総会　◇昨年度の地区支部長会議　◇その他
3.役員改選(会則改正は無し)
4.事務局報告(村林 大)
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告



●懇親会　14:00～15:00
出席者は5名で、会場を「彩香新店」に移動し、松本副支部長の奥様の手料理と2階から見える広場での賑やかな光景を眺めながらの昼食会であった。



●アコースティック
**　ユニットライブ**
**　15:00～17:00**
4階のライブ会場に移り、松本副支部長の乾杯でライブが始まった。
70年代フォークソングの世界が鮮やかに甦り、会員からのリクエスト曲も演奏してくれた。



鳥取県支部

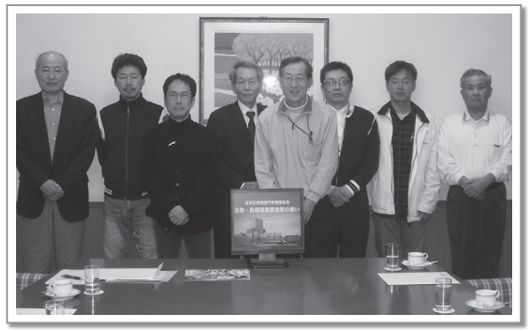
■設　立：平成4年8月7日　■登録会員：179名
■支部長：吉村 哲正　■E-mail tottori@kouyukai.net

島根県支部

■設　立：平成4年8月8日　■登録会員：166名
■支部長：藤原 義広　■E-mail shimane@kouyukai.net

第11回 鳥取県・島根県合同支部会員の集い

開催日：平成24年11月10日(土)　出席者：9名
会　場：米子市「米子全日空ホテル」「ワインレストラン クスクス」







●支部総会　15:00～17:00
1. 開会挨拶及び支部長報告（吉村鳥取県支部長、藤原島根県支部長）
　◇出席者への謝辞　◇2年間の支部活動など
2. 自己紹介
3. 役員改選
4. 校友会事務局報告（村林）
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
5. 学校案内用 DVD 鑑賞
6. 吉村支部長の講演「デジタル完全移行までの経過」（資料配布）



●懇親会
**　17:30～19:30**





徳島県支部

■設　立：平成2年9月5日　■登録会員：119名
■支部長：岡本 和之　■E-mail tokushimai@kouyukai.net

第12回 徳島県支部会員の集い

開催日：平成24年10月13日(土)　出席者：6名
会　場：徳島市「海鮮料理 太関」







●支部総会　18:00～21:00
1.支部長の挨拶(岡本支部長)
　◇出席者への謝辞
2.学校･校友会挨拶(猪口)
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3.支部活動報告(岡本支部長)
4.役員改選
5.その他



●懇親会



香川県支部

■設　立：平成2年9月11日　■登録会員：151名
■支部長：渡辺 博文　■E-mail kagawa@kouyukai.net

第12回 香川県支部会員の集い

開催日：平成24年11月11日(日)　出席者：9名
会　場：高松市「桃花苑」



●**支部総会　18:00~21:00**
1.支部長挨拶･支部活動報告
　◇渡邊支部長の挨拶　◇出席者への謝辞
2.事務局挨拶と報告(石原)
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3.支部活動報告(渡邊支部長)
　◇2年間の支部活動の報告　◇第23回通常総会参加
　◇近畿･中国･四国地区支部長会参加
4.会則･役員改選

●**懇親会**
参加者による自己紹介を兼ねて近況を報告した。学生当時の生活の話や香川県のぶどう、コンビニなどの話題で盛上がりあっという間に予定の時間が過ぎてしまいました。






愛媛県支部

■設　立：平成2年8月7日　■登録会員：195名
■支部長：佐々木 剛司　■E-mail ehime@kouyukai.net

第12回 愛媛県支部会員の集い

開催日：平成24年11月17日(土)　出席者：9名
会　場：松山市「松山全日空ホテル6階 中国料理 桃園」



●**支部総会　19:00~21:00**
1.支部長挨拶
　◇佐々木支部長の挨拶　◇出席者への謝辞
2.学校･校友会挨拶(猪口)
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3.支部活動報告(佐々木支部長)
4.会則･役員改選
5.その他



●**講演会**
富山県支部長石黒氏より「信号機のはなし」。渋滞予報の仕組み、すべての信号が赤になる時間帯、など身近な信号機の興味深い内容で、話が終わった後も、色々と質問が多く出ました。

●**懇親会**
順次自己紹介をしていただき、懐かしい話、最近の話題など尽きることなく、あっという間に時間が過ぎました。皆さん実に話題が豊富でした。



★ミニ取材
「俳句の町と秋の風景」
松山といえば俳句の正岡子規が有名です。彼にちなんで町のあちこちに俳句の刻まれた石碑がおかれています。また、路面電車にも俳句が書かれています。秋の風景とともに撮ってみました。




高知県支部

■設　立：平成2年9月13日　■登録会員：198名
■支部長：林 寛　■E-mail kouchi@kouyukai.net

第12回 高知県支部会員の集い

開催日：平成24年11月18日(日)　出席者：7名
会　場：高知市「高知会館3F 弥生の間」



●**支部総会　12:00~15:00**
1. 支部長挨拶
　◇林支部長の挨拶　◇出席者への謝辞
2. 学校・校友会挨拶（猪口）
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3. 支部活動報告（林支部長）
4. 会則・役員改選
5. その他



●**講演会**
富山県支部長石黒氏より「信号機のはなし」。渋滞予報の仕組み、すべての信号が赤になる時間帯、など身近な信号機の興味深い内容で、話が終わった後も、色々と質問が多く出ました。

●**懇親会　18:00~20:00**





福岡･佐賀県支部

■設　立：昭和63年10月25日　■登録会員：468名
■支部長：穴見 誠　■E-mail fuku_saga@kouyukai.net

第12回 福岡･佐賀県支部会員の集い

開催日：平成24年10月20日(土)　出席者：10名
会　場：福岡市「八仙閣 」



●**支部総会　19:00~21:00**
1.支部長挨拶
　◇穴見支部長の挨拶　◇出席者への謝辞
2.学校･校友会挨拶(猪口)
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3.支部活動報告(穴見支部長)
4.会則･役員改選
5.その他



●**懇親会**





長崎県支部

■設　立：平成4年7月10日　　■登録会員：310名
■支部長：釘山 威　　■E-mail nagasaki@kouyukai.net

第11回 長崎県支部会員の集い

開催日：平成24年10月27日(土)　出席者：12名
会　場：長崎市「ホテル セントヒル 長崎」















●支部総会　18:00～19:00
1. 開会挨拶（釘山支部長）
　◇出席者への謝辞
2. 釘山支部長報告
　◇2年間の支部活動
　◇第23回通常総会
　◇昨年度の地区支部長会議
　◇本年度の地区支部長会議開催県
3. 事務局報告（村林）
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
4. 役員改選（会則改正は無し）

●懇親会　19:00～21:00

熊本県支部

■設　立：昭和63年10月24日　　■登録会員：316名
■支部長：清田 茂信　　■E-mail kumamoto@kouyukai.net

第12回 熊本県支部会員の集い

開催日：平成24年11月24日(土)　出席者：8名
会　場：熊本市「アークホテル熊本城前」













●支部総会　18:30～19:30
1.開会挨拶及び支部長報告(清田支部長)
　◇出席者への謝辞
　◇2年間の支部活動
　◇新校舎紹介
　◇片柳学園の沿革
　◇今後の支部活動
　◇校友会会費の在り方
2.事務局報告(村林)
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3.役員改選(会則改正は無し)
4.熊本県支部会員の災害連絡網(資料配付)
　◇会員の集い案内はがき返信状況
　◇地区別卒業生数及び地区別在校生数
　◇返信はがき欠席連絡者名簿
5.中間年の「会員の集い」新企画案
　◇原子力発電所の見学　◇宿泊会員の集い

●懇親会　19:30～21:30

宮崎県支部

■設　立：昭和63年10月21日　　■登録会員：343名
■支部長：川添 守　　■E-mail miyazaki@kouyukai.net

第12回 宮崎県支部会員の集い

開催日：平成24年11月23日(祝・金)　出席者：18名
会　場：宮崎市「焼き肉　とうがらし」













●支部総会　15:00～19:30
1.支部長挨拶
　◇川添支部長の挨拶　◇参加者への謝辞
2.学校･校友会挨拶(猪口)
　◇学校としての出来事
　　学校の現況説明
　◇校友会としての出来事
　　校友会活動の報告
3.支部活動報告(川添支部長)
4.会則･役員改選
5.その他

●講演会
司会者、介護指導支援員の相沢早苗さんに自宅や職場で簡単に出来る健康体操について楽しく話していただいた。参加者の名前からヒントをとった簡単ストレッチ体操が披露されました。

●懇親会









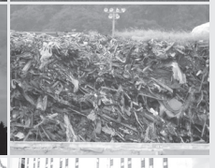
































校友会「支部会員の集い」の様子は、下記ホームページでもご覧になれます。
http://www.kouyukai.net/

平成25年度
支部事業

支部会員の集い開催予定

支部会員の集いは2年に一度開催されます。

総会では役員改選の後、支部活動についてのご意見をお聞かせいただき、その後の懇親会では地元の校友との情報交換やネットワークづくりの活発化を図ってまいります。また、講演会、研修会、見学会、レクリエーションなどを積極的に企画している支部もあります。

お知り合いの校友、姉妹校（八王子校・北海道校・東京工科大）の卒業生をお誘いのうえ、多数ご参加いただけますようお願い申し上げます。

支　部　名	開催月日（曜）	開　催　地	支　部　長
北海道支部	９月29日(日)	札幌市	平井 康美
青森県支部	９月28日(土)	青森市	野里 和弘
宮城県支部	11月16日(土)	仙台市	清水 幸男
秋田県支部	10月６日(日)	秋田市	高橋 由紀夫
山形県支部	10月20日(日)	山形市	鈴木 幸雄
茨城県支部	11月23日(土)	水戸市	廣瀬 憲治
首都圏支部	11月２日(土)	蒲田校	桂田 忠明
新潟県支部	11月９日(土)	村上市	植木 敏郎
富山県支部	10月12日(土)	富山市	石黒 明
石川県支部	10月13日(日)	金沢市	山岸 誠次
長野県支部	９月21日(土)	小諸市	峯村 理雄
岐阜県支部	11月10日(日)	高山市	番場 日出喜
静岡県支部	10月14日(月)	静岡市	奥川 宏
三重県支部	10月５日(土)	四日市市	平井 正博
京滋支部	７月27日(土)	大阪市	菅原 進
近畿支部	７月27日(土)	大阪市	中澤 広
岡山県支部	10月26日(土)	岡山市	白石 脩
広島県支部	10月26日(土)	広島市	福岡 孝司
山口県支部	11月30日(土)	山口市	浅井 雅博
大分県支部	８月３日(土)	大分市	森崎 俊彦
鹿児島県支部	11月16日(土)	鹿児島市	久山 順一
沖縄県支部	10月19日(土)	那覇市	徳田 永伸
韓国支部	調整中		李　芙暻
台湾支部	調整中		唐　偉倫

卒業生の集まる会

群馬県支部 ‥‥‥‥‥12月７日(土)　於：太田市

＊日程は都合により変更することがあります。

母校の歩み

今号では
昭和61年から
現在迄の
日本工学院専門学校の
歩みをご紹介します！



学校法人 片柳学園

日本工学院専門学校

本校は、昭和22年東京都大田区蒲田の一角に戦災の灰燼を払い校舎を建設し、「創美学園」として発足し平成24年、創立66周年を迎えることができました。これ迄に約14万人の卒業生を実社会に送り出し、卒業生の皆さんがそれぞれの分野での活躍が社会的にも高く評価され、本校がここまでに発展してこられたのも卒業生の皆さんのご活躍のお陰と感謝しております。

昭和61年（1986）～平成7年（1995）

総合的教育機関として大学を設立
理想的教育を実現するインテリジェントキャンパスの建設

創立以来本校は**「理想的教育は理想的環境にあり」**との理念に基づき社会の要請に応え、長年にわたり専門教育機関として教育内容の充実と施設、設備の拡充を図り、**「社会に出て直ぐに役立つ技術者の養成」**を行なってきましたが、更に真理の探究と専門的学問の研究を行い、総合的高等教育機関として最高学府としての大学設立の構想を立て、昭和46年、文部省の大学説明会にも出席、文部省と交渉し、工学部、芸術学部の2学部12学科、入学定員1,500名、全学生数6,000名規模の大学を想定し、47年大学設立計画を立て用地確保に着手したが、都心は大学施設の拡充が規制されていて都心部の用地取得は不可能であり、東京都下郊外地区に用地を求め、数ヶ所の候補地を選び調査の結果、用地面積が狭かったり、地権者が多く用地取得が困難であったが、東京の新たな文教地区として注目を集めている現在地の八王子市南方に位置する多摩丘陵の一角を長年の交渉の末、8年の歳月を費やし、ようやく375,000㎡（約12万坪）の用地取得契約が整い昭和55年春、念願の用地を取得することができた。


▲多摩丘陵の取得した用地

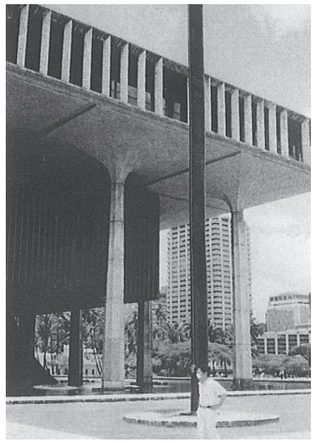

▲59年8月　造成工事を開始

取得した用地は市街化調整区域で土地開発許可が必要となり、昭和56年、土地開発申請書を八王子市に提出、2ヶ年後の昭和58年許可された。

また対象事業計画案に対し環境影響評価書案（環境アセスメント）を作成し昭和58年6月、東京都に提出し受理された。

建設に当たっては3社によるコンペを行い、㈱久米建築事務所、㈱村井建築設計事務所の2社に設計を依頼し、基本設計の段階から、国内の主な大学はもとよりアメリカ、カナダの20数校の大学や著名建物をリストアップし視察、更に歴史的に由緒あるヨーロッパ10ヶ国15都市を視察し、その粋を集め理事長の描く構想に基づき自然環境を最大限に生かし具体的設計に取りかかり、失敗は許されないことから慎重に計画し、当初は500分の1全体模型、更には本部棟などの独立柱やルーバーなどは実物大部分模型まで作り立体的視点から各校舎の検討を重ね具体的設計に取りかかった。

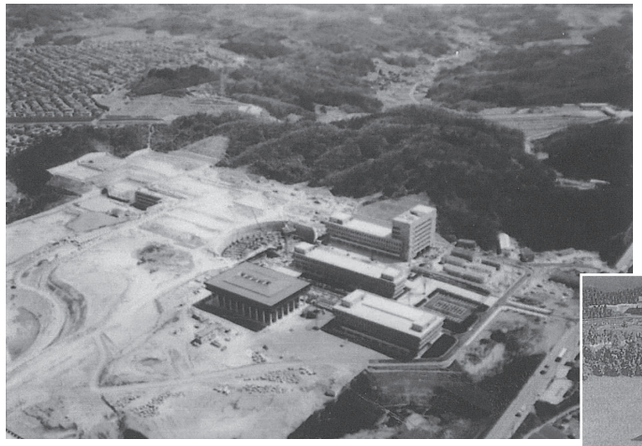
昭和59年8月、造成工事を開始し、11月15日、造成地において雨の降るなか地鎮祭を行い、翌60年4月から、第一期工事として、図書館、実験棟B 、講義棟B･C、サークル棟の建築工事が始まり、翌60年3月完成した。


▲ハワイ州庁舎

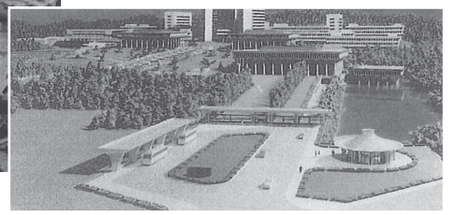

▲トロント市庁舎

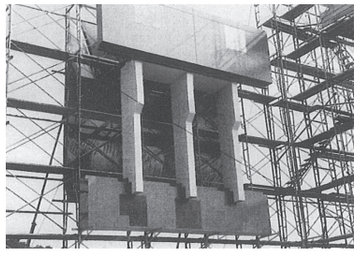

▲サーモンフレーザ大学（カナダ）

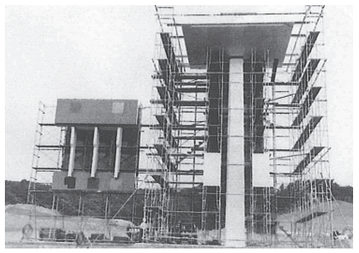

▲プリンストン大学（アメリカ）

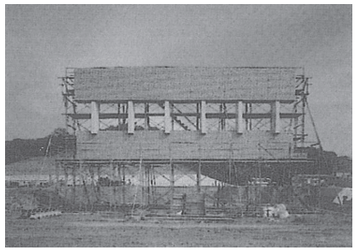

▲第一期工事が完成


▲南カルフオニヤ大学（アメリカ）


▲設計当初の1/500の全体模型


▲本部棟の実物大模型のルーバー


▲本部棟独立柱と堅ルーバーのディテールを検討


▲講義棟の外壁とタイルの色とルーバーのディテールを検討

❖ 東京工科大学開学

第一期工事の完成により、**東京工科大学の開学**の運びとなり、昭和61年4月、完成した実験棟B二階に於いて東京工科大学の入学式が挙行された。

開学当初の設置学科は電子工学科、情報工学科、機械制御工学科（各学科入学定員120名計360名）の3学科であったが、平成3年、18才人口がピークに達し文部省は期限付臨時定員増を認め、平成4年4月から各学科の入学定員は5割増（各学科180名計540名）となった。

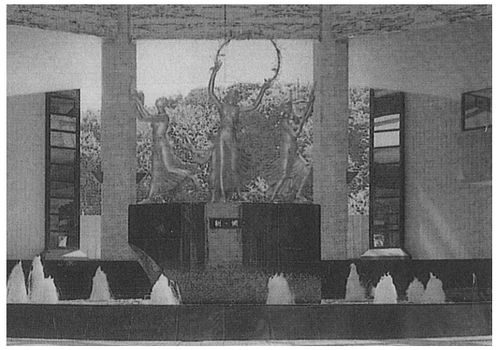
❖ 日本工学院八王子専門学校開学

第一期工事に引続き、第二期工事として研究棟、講義棟A、厚生棟、実験棟A、講義実験棟、スタジオ棟、体育館、本部棟の建築工事が始まり、昭和62年3月、講義棟A、厚生棟、実験棟A、講義実験棟が完成し、4月、**日本工学院八王子専門学校が開学**した。

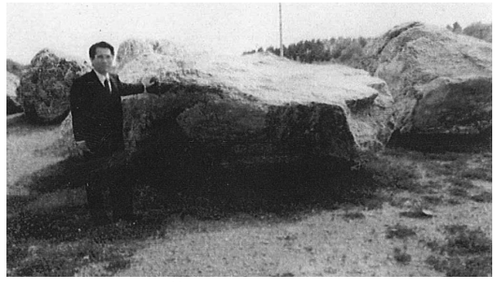
4月10日、第一期生1,000名を迎え、日本武道館に於いて、日本工学院専門学校と合同による入学式が盛大に挙行された。

その後、研究棟、スタジオ棟、体育館が、本部棟が7月完成、第二期工事の完成を期に「八王子キャンパス落成式典および記念祝賀会」が挙行された。引続き、第三期工事としてホール棟、講義棟D・E、美術館の工事が始まり平成元年11月完成した。着想後15年の歳月を経て理想的キャンパスの完成をみることができた。

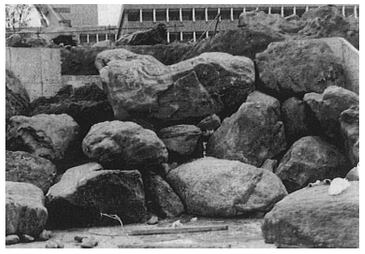
また、理想とする芸術的キャンパスとするため、建築と同様造園計画を重要視し、日本庭園の景石は北海道日高産石500t、四国伊予の石800tを理事長自ら出向き一つ一つ選び出し日本庭園等に配置した。また、キャンパスの随所に彫刻、ブロンズ像30数点を点在、建物内には理事長の絵画120数点を適所に展示し、体育館、図書館、厚生棟ロビーには理事長の描いた下絵の陶壁画で飾り芸術的キャンパスとなった。



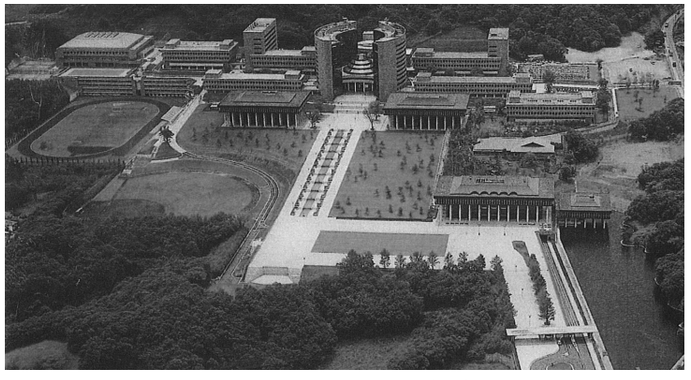
▲彫刻「朝の調べ」円鍔勝三氏作



▲北海道日高産石を理事長検分



▲日本庭園の滝の石組み

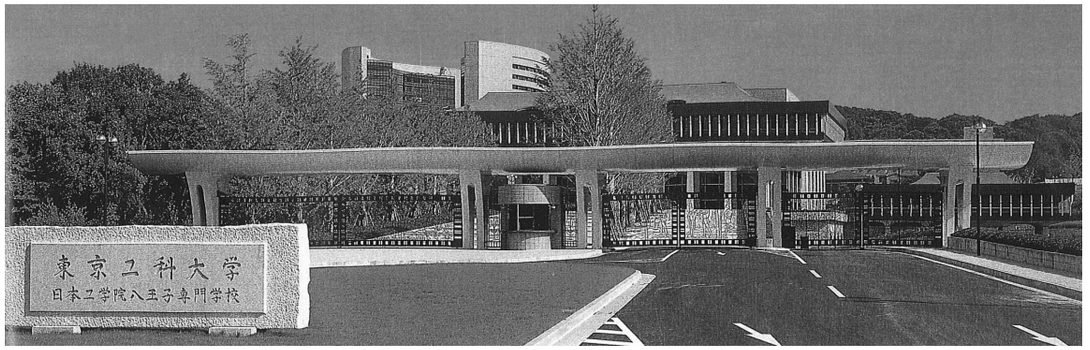


▲完成した八王子キャンパス全景

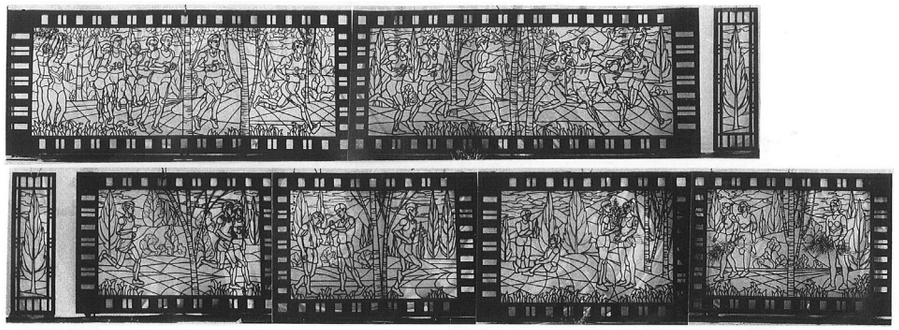


▲本部棟裏の滝の石組み

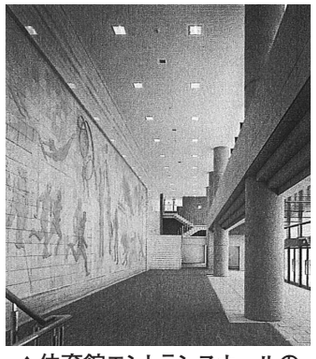
❖ キャンパスの芸術



▲正門の門扉は、理事長のデザインによる
「人生はマラソン」と題した走者がゴールのテープを切った感動的シーンである。



▲工場で理事長立合検査のため裏側に白のシートを張って見易くした門扉



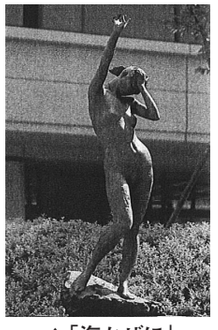
▲体育館エントランスホールの
陶壁画



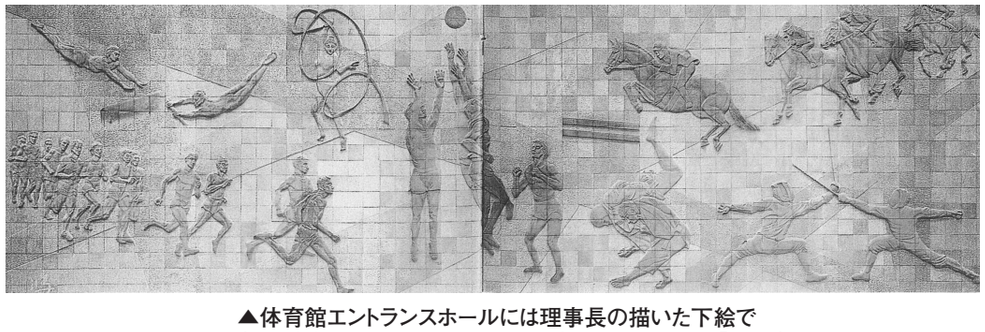
▲「夕なぎ」
村井良樹氏作



▲「ポーズする女」
圓鍔元規氏作



▲「海かぜに」
筒井英造氏作



▲体育館エントランスホールには理事長の描いた下絵で
スポーツ全般をモチーフにした陶壁画（20m×6m）題名「飛躍」

❖ 八王子キャンパスの設備工事に本校卒業生が協力

設備工事については、ホールの音響設備はビクターアークス㈱、同時通訳・会議音響装置は東京ナショナル通信特機船、鴻稜美術館には内外の優れた美術品が展示され監視カメラシステムと校内放送システムは池上通信機㈱の卒業生が担当し大変協力していただきました。

❖ 正木知巳氏 第五代学校長に就任



五代校長 **正木 知己**
在任期間:1987.4～1990.5（蒲田校）

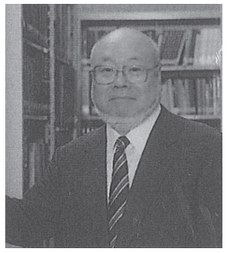
高木学校長が昨年開学した東京工科大学学長に就任されたため、本校の学校長を辞任され、後任として、正木知巳氏が昭和62年4月、第五代学校長に就任された。

正木新学校長は、京都大学工学部電気科を卒業され、日本電信電話公社電気通信研究所次長、沖電気工業㈱八王子半導体工場長、法政大学工学部電気工学科教授として、研究、教育の分野で活躍された。

❖ 情報処理科三年制を設置

コンピュータの高度化に伴い情報処理技術者もより高度な技術力が要求されることから情報処理教育の強化を図るため、平成元年4月、**第一部、修業年限3ヶ年の情報処理科三年制**を新設した。

❖ 医学博士 渥美和彦氏 第六代学校長に就任



六代校長 **渥美 和彦**
東京大学名誉教授
在任期間:1990.6～1995.2

正木学校長は、本校と日本工学院八王子専門学校学校長を兼務されていましたが、平成2年5月、本校の学校長の要職を離れ、後任として渥美和彦氏が6月、第六代学校長に就任された。

渥美新学校長は、東京大学医学部を卒業後、東京大学医学部教授、医用電子研究施設長、日本ME学会会長、国際レーザ医学会会長、電子技術審議会専門委員、学術審議会専門委員、宇宙開発委員会専門委員、東京大学名誉教授等多くの要職を歴任された。

❖ 第一回校友会通常総会を開催



第1回 校友会総会 開催

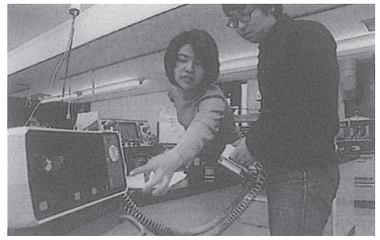
昭和42年、卒業生の会として研友会が設立され、会誌「かまた」を発刊、昭和46年から「校友会」に改めたが、校友会の活動を活発にするため、昭和63年、鹿児島県からスタートし各県に支部を設立、平成元年5月、第一回校友会首都圏支部総会が八王子キャンパスで開催された。

平成2年11月、各県支部長が代議員として出席し、第一回校友会総会が蒲田校図書館会議室に於いて開催された。

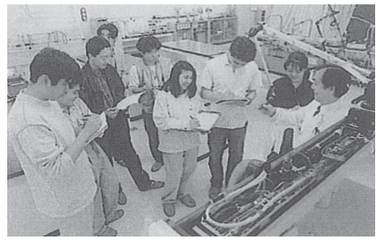
総会では、役員の選出が行なわれ、会長に首都圏支部長浅見幾彌氏（昭和48年ソフトウェア科卒）の選出をはじめ各役員の選出、会則の改正、支部規定の制定等が討議され、会計報告が行なわれた。

会長浅見幾彌氏が平成3年6月逝去され、3年11月、第二回通常総会において後任の会長選出が行なわれ、第二代会長に首都圏支部長桂田忠明氏（昭和36年放送技術部卒）が選出された。

❖ メデイカルエンジニア科の設置



▲除細動器実習



▲レーザーメス実習

昭和57年医用機器の製造、保守、点検に従事する技術者養成のため、医用電子工学科を設置したが、昭和63年臨床技士法の制定により、教科目を再編成し臨床工学技士として厚生大臣認定学科として「臨床工学科」に変更したが、高度化された医療機器は医療のなかでも重要な役割を果たしているが、医療現場において医師が高度な医療機器すべての関連技術を習熟し、医療業務に携わることは困難であり、医師にかわって医療機器の保守、点検、維持管理、及び研究開発、製造に従事するメデイカルエンジニア（医用工学技術者）が強く求められている。このため、電子工学、医学の基礎、医療機器についての専門教育を行う学科として、平成6年4月、**第一部、修業年限2ヶ年のメディカルエンジニア科**を設置した。

❖ コンサート・イベント科の設置



▲コンサート実習

今、ホールや野外ステージに於いてコンサートや音楽を中心としたイベント、スポーツイベントなど時代とともに増え続けていて、コンサートやイベントの企画、立案、演出から全体的運営、進行に携わる制作スタッフと、実際のイベント現場に於いて舞台制作から照明、音響の操作に携わる技術系スタッフを養成することを目的として、平成6年4月、**第一部、修業年限2ヶ年のコンサート・イベント科**を設置した。

❖ 工学博士 寺尾溝氏 第七代学校長に就任



寺尾 満
日本工学院専門学校校長
日本工学院八王子専門学校校長

平成6年2月、渥美学校長は内閣総理大臣より日本学術会議委員に任命され、国家事業に専念するため平成7年3月、学校長退任の運びとなった。

後任として寺尾満氏が、平成7年4月、第七代学校長に就任された。

寺尾新学校長は、大阪大学工学部電気工学科卒業後、聖路加看護大学特任教授、日本大学理工学部講師、東京工科大学講師の要職を歴任、勲三等旭日中綬章を受賞された。

❖ マルチメディア科の設置

コンピュータも小型化、高性能、安価となり、ソフトの開発により絵（グラフィック）が描け、音が出て、目と耳で同時に情報伝達が可能となり、ネットワーク技術の進歩にともない、本格的マルチメディア時代の到来に備え、平成7年4月、**第一部、修業年限2 ヶ年のマルチメディア科**を新設した。

❖ 東京工科大学の開学までの概要

昭和46年、大学設立計画を立て、当初は工学部、芸術学部の2学部12学科、入学定員1,500名、全学生数6,000名とし、敷地面積10万坪が必要と考え、土地探しに取り掛かり、最終的に八王子の多摩丘陵の一角の土地12万坪を取得した。

当時、都心地区における大学施設の拡充が規制され各大学は東京都下郊外地区への大移動が始まり多くの大学が続々と八王子やその周辺に新しいキャンパスを建設し、東京都という所在地の名称が得られることが大学経営戦略にとってもところを得た地域となり20数校となった。

文部省との交渉では、入学定員1,500名では定員数が多過ぎ認可は無理であり「小さく生んで大きく育てなさい」との指導を受け、関学当初は、電子工学科、情報工学科、機械制御工学科の3学科で入学定員360名、全学生数1,440名で認可されたが、キャンパスの建設は計画通り進めた。

その後、18才人口の増加に伴い平成3年には臨時定員増が認められ、本校も入学定員50%増が認められた。その後、コンピュータサイエンス学部、応用生物学部、メディア学部、更には大学院を新設し開学から27年を過ぎ、現在（平成25年7月）は、在校生数7,621名となり当初の予定どおり在校生数6,000名以上となった。

また、設計当初は、収容人員1万名を想定して設計されたが現在は大学・専門学校生で1万名を遥かに超える状態となった。

❖ 東京工科大学の名称について

新設大学であることから先ず日本の中心東京都内にあることを知らせるためにも校名に東京を入れ、工業より工科のほうが新鮮な感じを受けること、校名の文字数が多過ぎないこととし4文字の東京工科大学として文部省に認可申請を行なったが、文部省は東京工科大学名は東京工業大学に似ているので校名を変更するよう指導を受けたが、東京都内であることを強調するためにも東京工科大学で押し通し交渉の結果、**東京工科大学**として大学の認可を受ける事が出来た。

❖ キャンパスの建設について「コージェネレーションシステム」の導入

教育環境を整えるため、各棟は冷暖房空調設備を完備し、夏期冷房時、冬期暖房時の電気容量と、膨大な実験・実習、研究設備を備えその電気容量を考える必要があり、その最大電力は5,000KWを越えるものとなった。

当初、熱源としては環境に対する配慮から排気ガス対策上重油でなくクリーンな都市ガスを引込み使用したガス直焚ボイラーとした。

電気設備は必要とする最大電力は5,000KWを越えるものとなったことから特別高圧の引込みが必要となり新に東京電力㈱に特別高圧の電力供給を依頼すると、送電線敷設工事として片倉変電所から国道16号線を掘削埋設工事をしなければならず、巨額の引込み工事費の負担金（8億～12億円）と数年の工事期間を要し開学に間に合わないことが分かった。

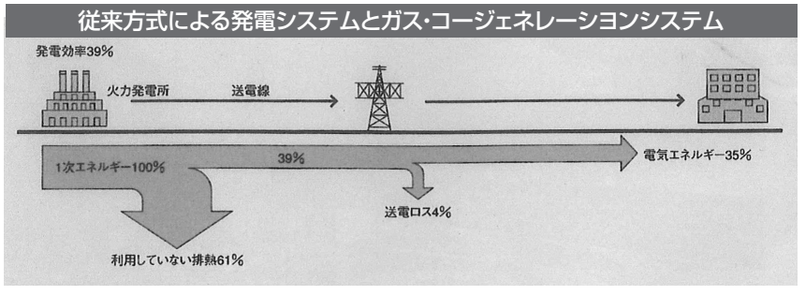
このため経費節減、省資源、省エネルギーを考え電気容量のほぼ半分に相当する3,000KWを6台のガスエンジン発電機により、その排熱を利用して冷暖房の熱源として利用するコージェネレーションシステムの導入を図ることにした。

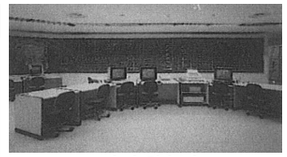
また、学校は夏期休暇、冬期休暇が長く大容量の電気使用期間は一時期であって大容量契約は不経済であり、また電気料金も当時KWh18～19円であったが、ガス発電の場合、単純にガス料金から換算した電気料金はKWh9～10円となり経済的である。

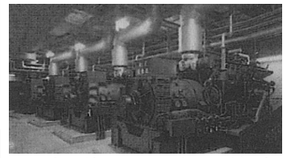
❖ コージェネレーションの概要

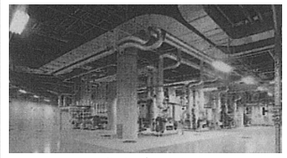
コージェネレーションとは**「1種類の一次エネルギーより連続的に2種類以上の二次エネルギーを発生させるシステム」**である。

本システムは、一次エネルギーとして環境を重視し、クリーンで供給が安定している都市ガスとし一次エネルギー変換装置としてガスエンジンにより発電機を駆動し、電力を得ると同時に、エンジンから発生する熱を回収し熱源として利用する省エネルギーを目的としたシステムであり、研究棟地下1階エネルギーセンター内に設置し、共同溝を介し各棟に電力と、熱源として冷温水を供給する。




▲中央監視室


▲エネルギーセンターガスエンジン室


▲エネルギーセンター
温水吸収冷凍機及び蒸気機械冷凍機

❖ 発電設備の概要

エンジンは、都市ガス13A、及び非常用として圧縮天然ガス（主成分はメタンガス）を燃料としたガス専燃エンジンで水冷18気筒、4サイクル、連続定格出力750PS、回転速度1,000rpm空気起動方式である。

発電機は、三相交流同期発電機で電圧6,600V、出力容量500KW、総発電容量は、需要電力のほぼ半分に相当する3,000KWで、稼働バランスへのシステム構成上、発電機を6台に分割し、これらの同期並列運転を行い、ピーク時の所要出力を図るよう構成している。

台数分割による運転システムとしたことにより、負荷の増減にともない稼働台数を最適に制御し、部分負荷運転を回避し、高効率の運転が可能となる。また、定期点検や、突発的トラブルの危険分散を考え合せ、1台が運転停止しでも他の設備を稼働させ、電気、熱の供給を確保できるようにした。

❖ 商用電力系統との系統連系

工事着工時において、系統連系のガイドラインはまだ発表されておらず、計画は商用契約電力3,000KW（緩力運転）で、これに500KW×6台の発電機を系統連系とし、最大電力6,000KWを供給可能とするものであった。しかし、昭和61年8月、通商産業省資源エネルギー庁から「系統連系技術用件ガイドライン」が発表され、系統連系容量は“**原則**として2,000KW未満”とあり、この“原則として”の追求を強く行なったが認められず、2,000KW未満を遵守すべく指導された。このため、500KW×4台を高圧一般配電線との系統連系とし、500KW×2台を単独分離運転とした。

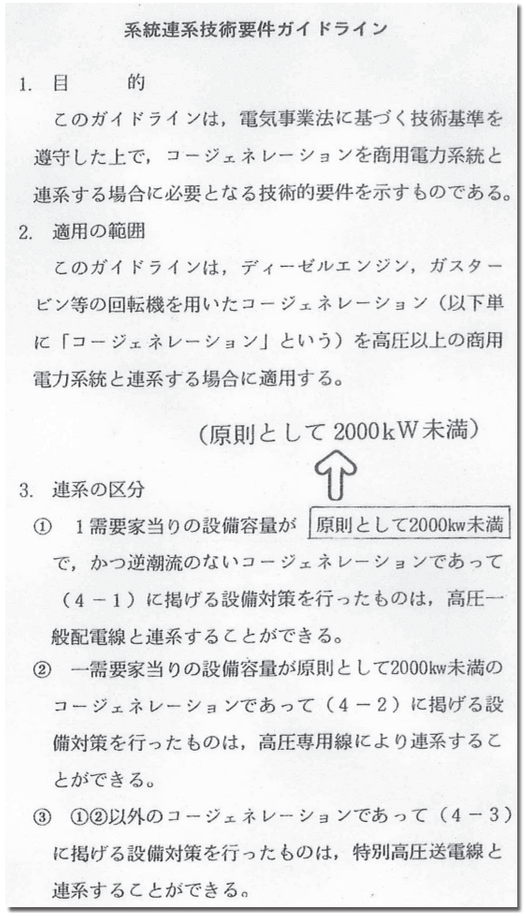
系統連系することにより、負荷側から見て同一電源として取り扱うことができることから、負荷の切替え操作がなくなり、電気的な質、安定性も向上し、発電機負荷は常時100%負荷で運転でき運転効率が高く、発電機の負荷を特定負荷に限定することなく、広い範囲の負荷とすることが出来る。しかし、他の需要家保護のため、保護継電装置が複雑になった。

商用電力系統との系統連系を図ったのは我が国では本システムが最初である。

❖ 常用発電機と非常用発電装置との兼用

コージェネレーションにおいては、常用発電機を非常用発電機と兼用することは、その設備の有効利用の観点からも重要である。しかし、消防はビル内におけるガス使用には危険視する傾向があり、地区消防を窓口に折衝を重ねたが、安全性への不信感は強く、折衝は難航した。

本システムは、予備燃料として圧縮天然ガスを使用しガスボンベ50本を屋外に設置し、非常用発電機の起動条件は「商用電源の停電」と「都市ガスの供給が停止」したとき自動切替えを行い、6台の発電機のうち1台に予備燃料を供給し、非常発電機として運転の継続を図った。



系統連系技術要件ガイドライン

1. 目　　的

このガイドラインは，電気事業法に基づく技術基準を遵守した上で，コージェネレーションを商用電力系統と連系する場合に必要となる技術的要件を示すものである。

2. 適用の範囲

このガイドラインは，ディーゼルエンジン，ガスタービン等の回転機を用いたコージェネレーション（以下単に「コージェネレーション」という）を高圧以上の商用電力系統と連系する場合に適用する。

（原則として 2000kW未満）

3. 連系の区分

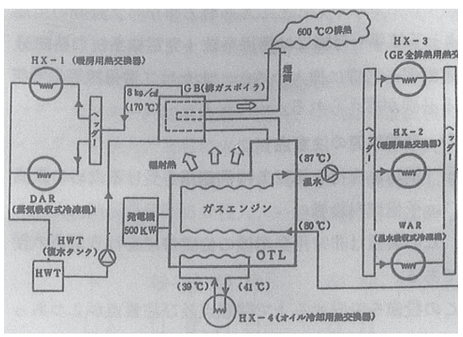
① 1需要家当りの設備容量が 原則として2000kw未満 で，かつ逆潮流のないコージェネレーションであって（4－1）に掲げる設備対策を行ったものは，高圧一般配電線と連系することができる。

② 一需要家当りの設備容量が原則として2000kw未満のコージェネレーションであって（4－2）に掲げる設備対策を行ったものは，高圧専用線により連系することができる。

③ ①②以外のコージェネレーションであって（4－3）に掲げる設備対策を行ったものは，特別高圧送電線と連系することができる。

予備燃料にガスを使用した設備とし、常用発電機と非常用発電機兼用として特例申請をしたが、ガス使用には危険視する傾向があり、安全性の不信感が強く折衝は難航したが八王子消防署、東京消防庁の指導のもと、制御システム、運用面などについて検討を重ね、特例申請は2台を非常用発電機としていたものを6台全機を非発仕様とし、ガス燃料系統を変更、予備燃料保有量を発電機1台が定格容量（500KW）にて2時間以上運転できる量とするなど、非発としての機能拡充を図り常用・非常用兼用発電装置として認可された。

❖ 熱源設備の概要

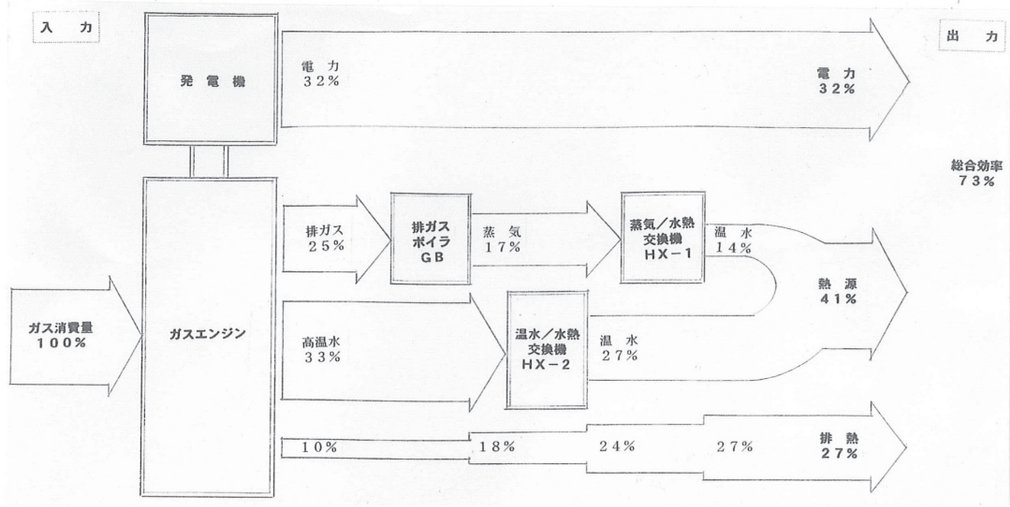


本システムの熱源設備としては、ガスエンジン発電装置6台の排熱を利用するコージェネレーション設備と、ガス直焚冷温水発生機2台より構成されている。

エンジンから発生する熱は、シリンダーから出る排気ガス、エンジンを冷却するジャケット冷却水、潤滑油を冷却するクーラー冷却水と、エンジン本体から周囲に放熱する輻射熱であり、回収する熱源は、煙導からの排ガス熱と、エンジンジャケット冷却水の排熱である。

エンジン排ガス（約600℃）は各エンジン煙導毎に設置された排ガスボイラー（GB）を通過させ8Kg/㎠の蒸

コージェネレーションのエネルギーバランス



気を発生させ、この蒸気で夏期、蒸気二重効用吸収冷凍機2台、冬期、熱交換機（HX-1）2台を介し冷温水を発生させ、エンジン冷却水は、エンジン出口87℃に制御され夏期は温水単効用吸収式冷凍機・2台、冬期は熱交換機（HX-2）・2 台を介し冷温水を発生させ冷暖房熱源として利用する。

また、排熱利用だけでは熱源は不足のため、コージェネレーションと並列にガス直焚吸収冷温水発生機2台を設置し、同時運転を図り、夏期、冬期最大熱負荷時の熱供給比率は以下の通り。

中間期で熱源不要のときは、排ガスはバイパスダクトにより排ガスボイラーをバイパスし煙導より大気へ放熱し、エンジン冷却水は、余剰熱放散用熱交換機2台で冷却水と熱交換し、冷却塔2台により大気に放熱する。

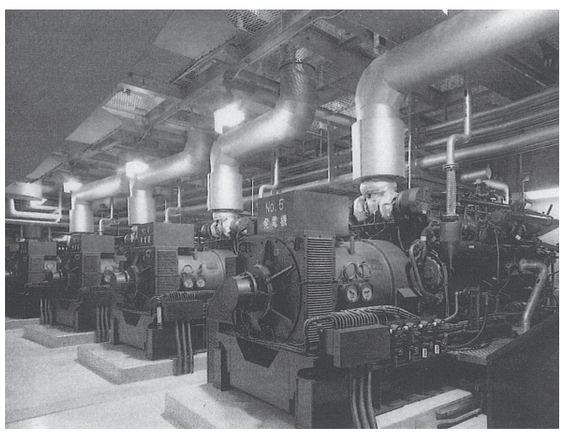
	コージェネレーション	ガス直焚冷温水発生機
夏期冷房時	40%	60%
冬期暖房時	60%	40%

従来の発電システムは、電力のみを利用し排ガス・冷却水の排熱は捨ていたため効率は30～40%でかかるが、コージェネレーションシステムでは、熱交換機を介し排熱を同時に利用することにより熱利用効率が40%程度得られるため、総合エネルギー利用率が非常に高く、総合効率は暖房時73%、冷房時67%となった。

❖ その後の状況について

コージェネレーションを導入して早23年が過ぎ、当時ガスエンジンの耐用年数は10年程度と考られていたが現在も故障することなく稼動しているが、制御用コンピュータは新しいシステムになった。

また、当初は系統連系技術要件ガイドラインにより、4台が高圧一般配電線との系統連系、2台は単独分離運転となったが、その後、系統連系技術要件も変わり、現在は当初の計画通り6台すべて系統連系されている。土・日曜日は電気料金が安いため運転を停止している。また、非発用予備燃燃料用ボンベも不要となり撤去した。



▲研究棟エネルギーセンター内のガスエンジン室

❖ 新校舎（3号館）が完成

蒲田地区のグランドマークとして20階建て新校舎（3号館）が平成22年2月完成し10月9日、新施設完成記念祝賀会が開催された。

新校舎は、敷地面積18,555㎡（5,612坪）、建物は地下1階、地上20階建て建築述べ面積57,581㎡（17,418坪）で、平成20年9月着工、22年2月完成し、その後旧3号館を解体し、セントラルプラザ（円形庭園）、六号館カフェテリア（FOODS FUU）が7月15日完成した。

新校舎は、専門学校としての実験・実習、教育設備の一層の充実を図るとともに、理想的教育環境を図るため、従来の校舎と異なり、広い中廊下と教室の仕切はガラスパーティションとし明るくオープンな空間構成とし、教室は窓側も床から天井までガラス窓で明るく開放的な教室とし、学生が最善の教育環境で勉学に専念できるよう環境を整えた。



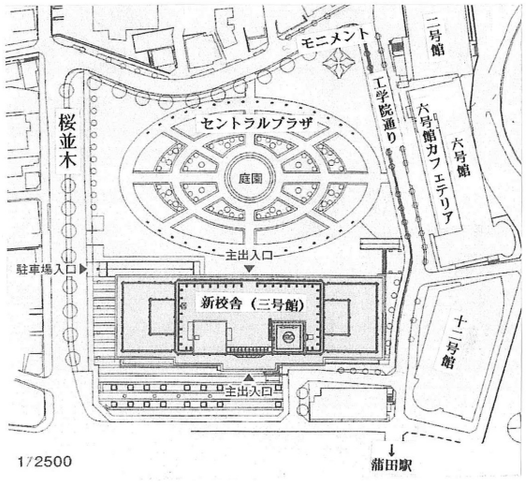
▲多摩堤通りの南側から見た校舎全景
低層部はアーチ状の列柱、上層部はアルミカーテンウォール（フッ素樹脂焼き付け準装＋熱線反射ガラス）

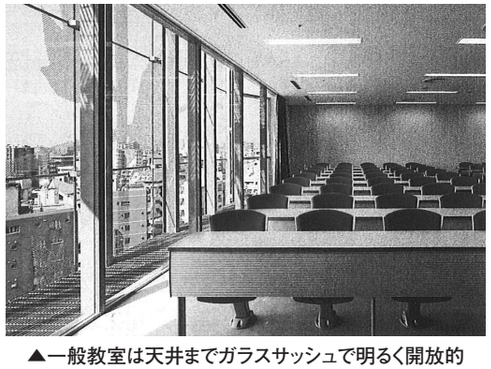


▲エントランスホールは3階吹抜けの大空間
床と壁はイタリア産大理石



▲中廊下と教室はガラスパーテイションで仕切り明るい

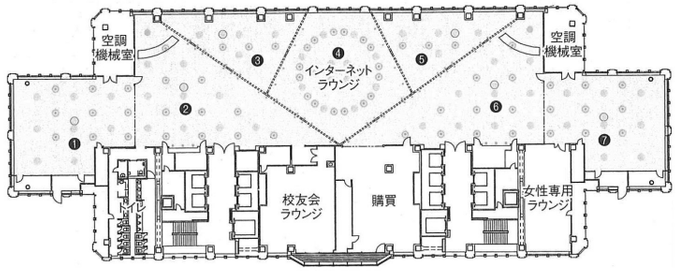




▲一般教室は天井までガラススッシュで明るく開放的

また、学園の更なる改革をすすめるため、東京工科大学蒲田キャンパスとして、医療保健学部（看護学科、臨床工学科、理学療法学科、作業療法学科）、デザイン学部の2学部を開設した。

12階に学生ラウンジを設け、インターネットが自由に使え、ミーティング、学習、待ち合わせ、休憩などに利用され、開放的な場所で、女性専用ラウンジも確保されている。照明は、長寿命・高効率のLEDを使用し、照度センサーにより自動減光し、また人感センサーにより自動調光システムを採用し、エリア別に不在時には消灯するなど、各種手法により省エネルギーを推進し、これらの手法が評価され環境省より「省エネ照明デザインモデル事業」に採択された。



▲12階平面図、学生ラウンジと校友会ラウンジ



▲500席の広々とした学生ラウンジ



▲学生が自由に使えるインターネットラウンジ

セントラルプラザ（円形庭園）は、広さ11,000㎡（3,300坪）を誇る花と緑に溢れる広大な広場で、学生の憩いの場でもある。また、一郭には、セントラルプラザのシンボルモニメント（Friendship／片柳鴻理事長作）が聳えている。



▲個性的なモニメント「Friendship」



▲セントラルプラザ（円形庭園）



▲工学院通り、左側は6号館カフェテリア

❖ 校友会ラウンジ

新校舎完成により、12階に卒業生の皆さんの**「校友会ラウンジ」**がオープンしました。

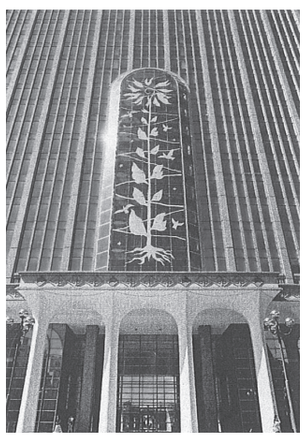
ラウンジは、会議テーブルやソファー、リクライニングシートを備え、皆さんが、会議、懇親会、同窓会、待ち合わせ、遠方からの長旅の疲れを癒す場所として、眺望も素晴らしく、是非ご利用下さい。



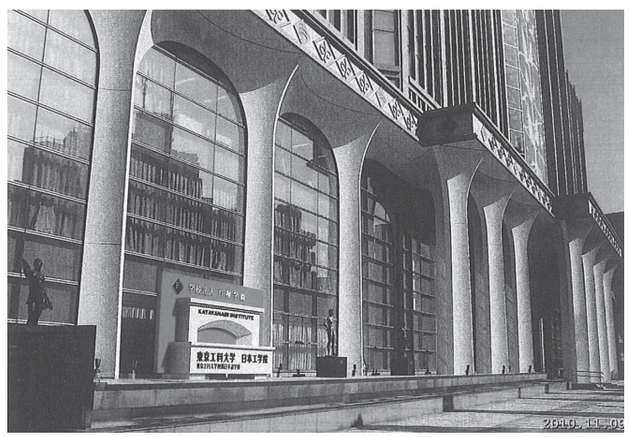
▲校友会ラウンジ入口



▲校友会ラウンジ



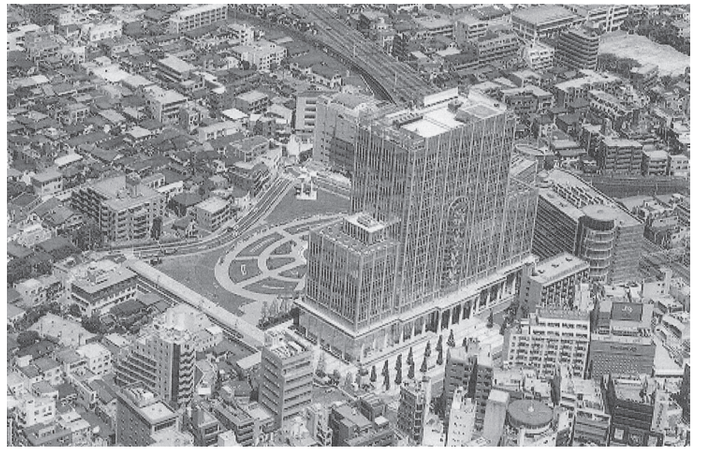
▲新校舎の中央のシンボル
「成長の樹」

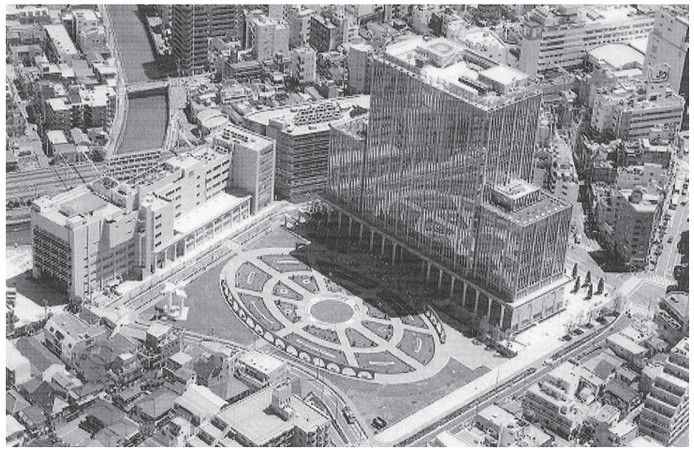


▲低層部のアーチ状の列柱

❖ 空から見た蒲田キャンパス

空から見た
新校舎正面





空から見た
新校舎裏側の
セントラルプラザと
2号館、6号館

新校舎
最上階からも
羽田空港が
眺められる



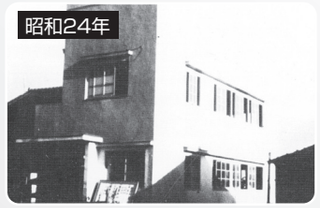
47・48号・49号とお届けしてきました「母校の歩み」の連載は今回で終了です。
卒業生の皆様、これからも母校「日本工学院専門学校」の発展のため
ご支援・ご協力よろしくお願い致します。

写真でみる 校舎の変遷

昭和22年(1947年)5月、理事長 片柳 鴻により、大田区女塚3丁目(現在西蒲田5丁目)に絵画、洋裁教育を目的に創設された「創美学園」。以来66年間の歴史を誇る校舎の変遷をたどりました。



創立時の校舎



増築校舎が完成



木造校舎が完成



増築した木造モルタル2階建て校舎



1号館が完成



2号館が完成



3号館が完成



5号館が完成



6号館(現在の5号館)が完成



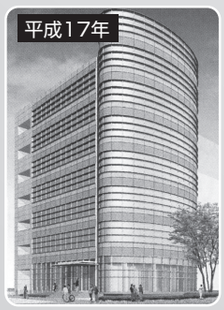
7号館が完成



6号館(旧5号館)が完成

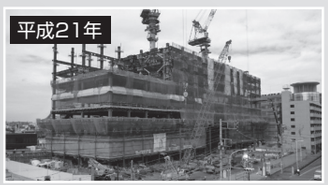


8号館が完成



アニメ・デザイン館(6号館を増築)が完成







電子工学・電気工学　同窓会のお知らせ

暑かった夏も終わりに近づき、そろそろ秋の気配も感じられるようになり、卒業生の皆様もほっと一息つかれていることと存じます。さて、電気工学科(電気工学専攻、電気工学コース)では平成18年以来2回目、電子工学科(電子工学専攻、HE専攻、電子工学コース、家電・オーディオコース)では初の同窓会を下記の要領で開催いたします。(申し訳ございませんが、電子工学科は卒業生数が膨大なため今回は50期〔平成元年3月卒業〕以降の卒業生に限定させて頂きます。50期以前の同窓会も今後開催を計画しています。)懐かしい友人や恩師との旧交を温めるべく、ふるってご参加ください。

★日 時：**平成25年10月12日(土)　午後2時30分**
(午後2時より31005教室前にて受付)

★会 場：日本工学院専門学校
3号館10階　31005教室(総会)
3号館12階　学生ラウンジ(午後4時より懇親会)



★会 費：3,000円 (当日受付時に集めさせて頂きます)

※参加ご希望の方は、お手数ですが、卒業期(または卒業年)、氏名、連絡先(住所またはメールアドレス)、勤務先をお書き添えの上、下記連絡先までメールまたはFAXにて9月20日までにご一報下さいますよう願いいたします。



お問い合わせ先

日本工学院専門学校　電子・電気科
TEL.03-3732-1367　FAX.03-3732-1419
電子工学担当　横山 E-mail:yokoyama@neec.ac.jp
電気工学担当　渡邉 E-mail:kazu@neec.ac.jp
URL：http://www.kouyukai.net

日本工学院 音響芸術科 合同同窓会 ～あの人は今!! 2014 ～

日時　**2014年3月22日(土) 16:00-20:00**

詳細　http://mdmembers10.wix.com/2014

mdmembers10@gmail.com

主催：MD22 広畠 知也／MD22 阿部 雄太

MD19 ～ MD26 期大同窓会を開催!
工学院音響卒業生、関係者なら誰でも参加可能!
知り合いをバンバン誘ってみんなで楽しもう!
久しぶりの再会から、
何かが生まれるかも…?!

※本会は校友会事務局ではお取り扱いしておりません

● 城南寮一期生の方連絡下さい! ●

私は昭和46年電算ソフト入学時に城南寮にお世話になった清田茂信と申します。
当時寮の舎監をしていらした伊東先生(特に奥様)には大変お世話になりました。
そこで伊東先生ファミリーを囲んでの城南寮一期生大同窓会を計画しています。
しかし、当時の名簿がありませんので連絡方法がなく困っています。
日程等はこれから決めていきますが、案内状の送付先を事前にご連絡下さい。
連絡先は校友会事務局の「城南寮一期生大同窓会世話係り」迄お願い致します。
尚、日程調整の関係から9月末頃迄に連絡をお願いできれば幸いです。



第48回「かまた祭」のお知らせ

平成25年 11月2日(土)・3日(日)

平成25年度第48回かまた祭は、蒲田キャンパスで専門学校と東京工科大学との共同開催で11月2日(土)、3日(日)の2日間行われます。斬新なアイデアと企画で、昨年以上に盛り上げようとスタッフ一同大いに張り切っています。是非、後輩の活躍をご覧下さい。



★ 多くの方々のご来場をお待ちしております! ★

卒業生の皆様へ

日本工学院専門学校「校友会」
平成25年度「会員の集い」のお知らせ



開催日：平成25年11月2日(土) 【かまた祭】期間中

★ **支部総会** 首都圏支部(東京、神奈川、千葉、埼玉)
- 時　間：14:00～15:00
- 場　所：3号館10階　31005教室

★ **講演会** 校友会･かまた祭実行委員会共催

講演会はどなたでも参加自由!

- テーマ：「やく･みつるですけど、何か?」
- 講　師：やく みつる
- 時　間：15:30～16:30
- 場　所：3号館10階　31005教室



★ **懇親会**(卒業生ならどなたでも参加できます)
- 時　間：17:30～18:30
- 場　所：6号館2階　フーズフー
- 会　費：1,000円(懇親会費用は2,000円ですが1,000円は校友会で負担いたします)

かまた祭見学を兼ね、お友達をお誘いあわせの上、気軽に御来校ください!

お問合せ先 日本工学院専門学校 校友会事務局 ☎03-3732-8183

平成24年度 卒業証書授与式











平成25年3月17日卒業証書授与式がパシフィコ横浜国立大ホールで挙行されました。当日は理事長、学校長はじめご来賓のオムニバスジャパン執行役員 丸井 庸男様、校友会会長 桂田 忠明様から励ましのご祝辞をいただきました。卒業生総代、優等賞総代らは晴れ晴れしい顔つきで、学校長から卒業証書を受け取っていました。卒業証書授与式の後、企業コンクールでの入賞者や国家試験での優秀者等の特別表彰が行われ、会場内の卒業生から表彰者を称える大きな拍手が沸き起こりました。

平成25年度 入学式











平成25年4月10日に平成25年度日本工学院専門学校の入学式が武道館にて挙行されました。今年はご来賓として直木賞作家の石田 衣良様、本校ダンスパフォーマンス科トータルプロデューサーのSAM様のお二方をお迎えしてご挨拶をいただきました。理事長、学校長の祝辞に続くお二人の心温まるお話に入学式に参加された新入生はじめ保護者の方々は感動した面持ちで聞き入っていました。新入生達はこれから始まる学生生活に期待を膨らませていました。

第47回 かまた祭 テーマは「前進前麗 ～今日のこの日を明日への糧に～」











平成24年11月3日（土）、4日（日）の二日間にわたり第47回かまた祭が開催されました。開会式では東京実業高校のマーチングバンド部に先導され、専門学校・大学両学生実行委員を先頭に理事長、学校長、地元自治会長、校友会会長らのご来賓の入場行進が行われました。テープカットとともに1000個の風船と30羽のハトが快晴の秋空に放たれ、晴れやかに学園祭がスタートしました。今年は「前進前麗～今日のこの日を明日への糧に～」のテーマのもと様々な会場で専門学校生、大学生達がそれぞれ工夫を凝らしたステージ、イベント、模擬店へと積極的に参加しました。また、今年度専門学校ではカレッジ教育発表の場を設け、1年生は全員「私の将来宣言」と題し、自身の将来をB6サイズで自由に表現しました。昨年度より恒例となった震災復興支援ブースでは被災地出身のボランティア学生、教職員らが協力して宮城県石巻市で水揚げされた新鮮なホタテを使った「ホタテのバター焼き」、「ホタテスープ」の販売を行いました。今回の売上金および寄付金は「被災地に漁船を贈ろう!」募金に寄付いたしました。校友会としても10万円の寄付をしました。

第44回 体育祭 テーマは「青春満開」











好天に恵まれた5月23日（木）、大井ふ頭中央海浜公園にて第44回体育祭が開催されました。開会宣言直後に参加者全員による校歌斉唱が大井ふ頭に響き渡りその余韻の中で理事長先生、校長先生のご挨拶をいただきました。ダンスパフォーマンスチームと一緒に体をほぐした後にサプライズゲストの登場、さらに参会者全員が見守る中で第一競技のスターターを校長先生にお願いし大綱引きを慣行!!

盛りだくさんの開会式を終えた後、各種競技に大会テーマの青春が満開となりました。ご協賛いただいた伊藤園様による二千本余りのドリンクを片手に熱中症対策も万全!!　大きな事故やトラブル、怪我も無く競技もほぼ時間通りに終了し、お楽しみの大抽選会へと進みました。

競技進行、表彰、用具、庶務と数ヶ月前より色々な場面を想定し、遅くまで学校に残って準備を進めてきた学生運営委員会のメンバーにとっても大いに苦労が報われる一日となりました。

昨年度のテーマは『一致団結』。参加学生と運営学生、親身になって見守り支えて頂いた先生方と団結しての『青春満開』。来年に繋げていきましょう! 少し日焼けした参加者全員と拍手の中で締めくくった学生委員長の閉会挨拶をもって大団円。今年度の体育祭を無事に終えることとなりました。

キャリアサポートセンターからの報告





キャリアサポートセンターでは、就職･デビュー･進学とあらゆる進路先のサポートをしています。

景気も少しずつ上向き傾向の様子ですが、まだまだ厳選採用です。学生にとっては就職活動も社会人になるための大きな扉であり、緊張しながら開いていこうとしています。その様な中、各方面で諸先輩方が活躍されているおかげで、求人を頂くことができ感謝しております。

当センターでは、業界ごとの「合同企業説明会」、企業ごとの「個別企業説明会」を開催しています。諸先輩方の活躍をお聞きするたびに、社会人になる厳しさと共に生き生きと活躍されるお話しをお聞きし、卒業後の進路に向けて夢を膨らませています。今後ともご参加をお待ちしております。

また、地元就職の状況や求人などございましたら、ご一報いただきたくお願いいたします。学内行事等でご来校されたときは、3号館1階のキャリアサポートセンターに、ぜひお立ち寄りいただき、情報交換などお待ちしております。よろしくお願いいたします。

■ 平成25年度 キャリアサポートセンター行事日程表（一部掲載）

	開催予定日	期 間	行 事 名	参加予定	場 所
1	平成25年2月15日(金) 実施済み	1日間	合同企業説明会	152社	パシフィコ横浜
2	平成25年4月17日(水)～19日(金) 実施済み	3日間	春季合同企業説明会	359社	大田区産業プラザPIO
3	平成25年6月26日(水) 実施済み	1日間	大田区企業合同説明会	24社	3号館12階　学生ラウンジ
4	平成25年9月25日(水)	1日間	ゲーム･CG合同企業説明会	7社	3号館教室
5	平成25年9月28日(土)	1日間	劇団･プロダクション合同説明会	48社	3号館12階　学生ラウンジ
6	平成25年10月18日(金)	1日間	秋季合同企業説明会	未定	東京都立産業貿易センター
7	平成25年10月23日(水)	1日間	音楽産業系企業限定セミナー	11社	中野サンプラザ
8	平成25年11月21日(木)	1日間	医療機関合同説明会	24病院	ギャラリー鴻

求人情報ご提供のお願い

当校後輩学生へのご求人、業界へのアルバイト情報が有りましたら、
下記までご連絡ください。尚、お問い合わせの際には、
当校のOB&OGである旨をお伝えください。

お問い合わせ先

日本工学院専門学校
教育･学生支援部 キャリアサポートセンター担当
TEL:03-3732-5610（直通）
FAX:03-3732-1123
E-Mail: syusyoku@neec.ac.jp

Webからの直接求人申込（新卒対象のみ）は
当校HPより「採用企業の皆様へ」のバナーよりご入力ください。

平成25年3月

教職員退職者報告

永年ご指導くださいました次の先生方が、定年または一身上のご都合により退職されましたのでお知らせいたします。

氏　　名	所　属　等（退　職　時）
光木 保臣	図書館
仙波 唯男	教育・学生支援部
松澤 正美	東京工科大学事務局
境 一夫	八王子校　テクノロジーカレッジ
吉岡 たへ子	教育・学生支援部
伏見 善之	北海道校事務部
和気 巨英	教育・学生支援部
竹内 正人	蒲田校　クリエイターズカレッジ
金田 彰二	蒲田校　テクノロジーカレッジ
今田 浩	蒲田校　テクノロジーカレッジ
堤 由実子	蒲田校　クリエイターズカレッジ
濵井 麻子	蒲田校　ITカレッジ



大石 清彦

★ 蒲田校 医療カレッジ

お世話になりました。JH1LZUで1.8MHzから50MHzまで200Wで運用しています。



半澤 幸子

★ 東京工科大学附属日本語学校

人生はあっという間です。自分なりのこだわりを持ちながら日々過ごしていけると良いですね。



長田 進

★ 蒲田校 テクノロジーカレッジ

昨年の9月末で退職致しました。卒業生の皆様方のご健康とご活躍をお祈り致します。



村上 竹久

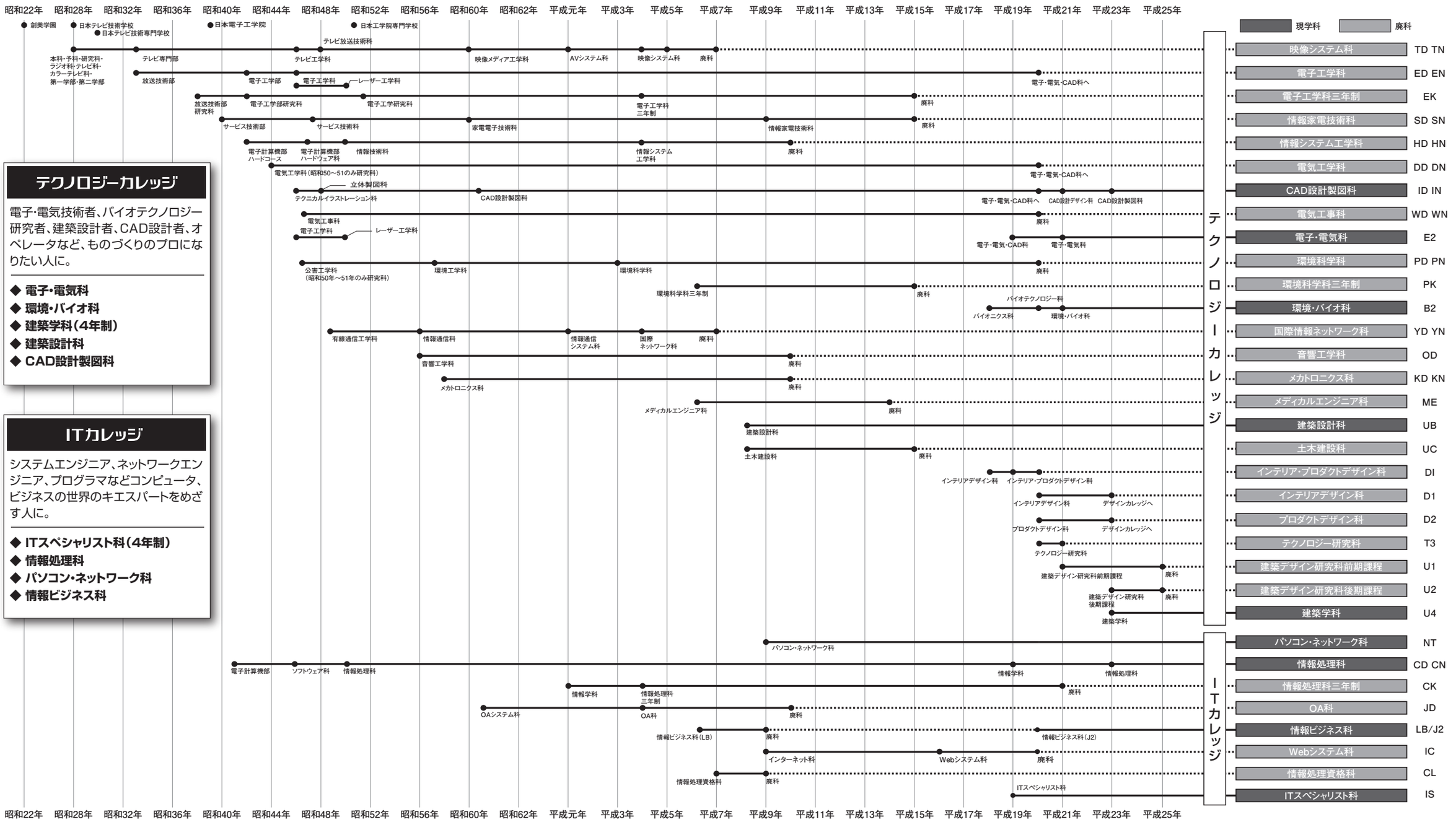
★ キャリアサポートセンター

退職後、育爺を楽しみながら有り余る時間を有意義に過ごしていきたいと考えております。

蒲田校 学科の変遷

実践的なカリキュラムで学べば、あなたの未来は無限大。
あらゆる業界をカバーする多彩な学科群。

日本工学院（蒲田）には、それぞれに高い専門性を備えた6つのカレッジのもと、個々の分野で真に社会で求められているプロを養成するための多彩な学科がある。学問のための学問ではなく、職業人として必要な教養とスキルを磨くために練り上げられた実践的なカリキュラム。それらは、日本工学院という1つのキャンパスに集うことでまったく新しいコラボレーションを生む可能性をも秘めている。



テクノロジーカレッジ

電子・電気技術者、バイオテクノロジー研究者、建築設計者、CAD設計者、オペレータなど、ものづくりのプロになりたい人に。

- ◆ 電子・電気科
- ◆ 環境・バイオ科
- ◆ 建築学科（4年制）
- ◆ 建築設計科
- ◆ CAD設計製図科

ITカレッジ

システムエンジニア、ネットワークエンジニア、プログラマなどコンピュータ、ビジネスの世界のキエスパートをめざす人に。

- ◆ ITスペシャリスト科（4年制）
- ◆ 情報処理科
- ◆ パソコン・ネットワーク科
- ◆ 情報ビジネス科

クリエイターズカレッジ

ゲームやアニメ、CG、テレビや映画で活躍するディレクターや声優・俳優、デザイナーなどをめざしたい人に。

- ◆ 放送・映画科
- ◆ 声優・俳優科
- ◆ マンガ・アニメーション科
- ◆ ゲームクリエイター科
- ◆ CGクリエイター科
- ◆ クリエイティブラボ（4年制）

デザインカレッジ

デザイン力、キャリアデザイン、人間形成の3要素をバランスよく学び、ワンランク上のデザイナーをめざす人に。

- ◆ グラフィックデザイン科
- ◆ Webデザイン科
- ◆ インテリアデザイン科
- ◆ プロダクトデザイン科

ミュージックカレッジ

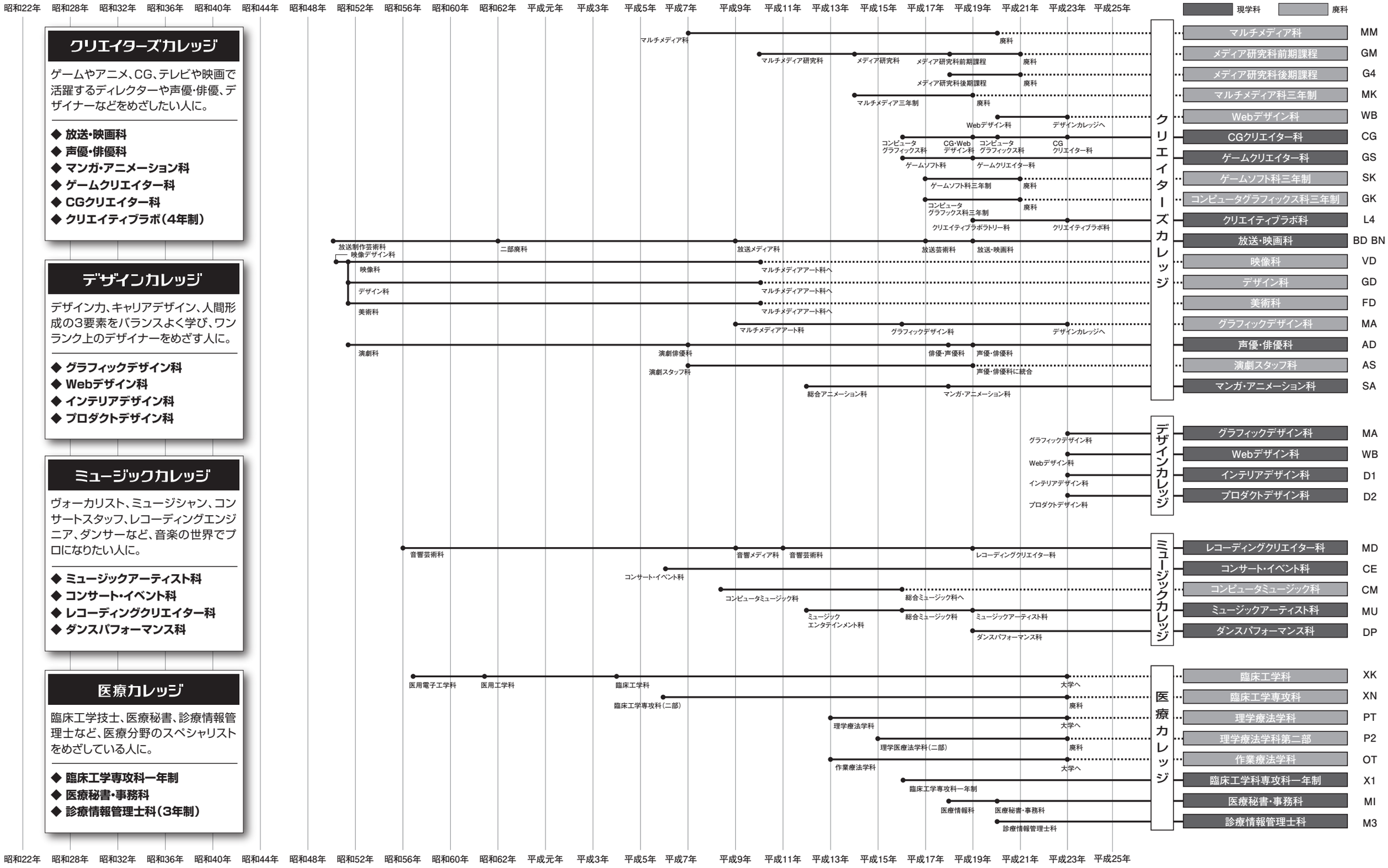
ヴォーカリスト、ミュージシャン、コンサートスタッフ、レコーディングエンジニア、ダンサーなど、音楽の世界でプロになりたい人に。

- ◆ ミュージックアーティスト科
- ◆ コンサート・イベント科
- ◆ レコーディングクリエイター科
- ◆ ダンスパフォーマンス科

医療カレッジ

臨床工学技士、医療秘書、診療情報管理士など、医療分野のスペシャリストをめざしている人に。

- ◆ 臨床工学専攻科一年制
- ◆ 医療秘書・事務科
- ◆ 診療情報管理士科（3年制）



校友・交遊

集まってます!

校友会「青森県支部会員の懇親会」報告

日時：平成24年10月7日(土)17:00～20:30　　場所：八戸市「フリースクエアー ノヅキ」







◉ 絵画展　17:00～18:00

野里支部長が用意された絵画数十点(片柳理事長の画集の抜粋)を展示し、その素晴らしさを観賞した。また、野里支部長による著作権の話題にも花が咲いた。出席者それぞれがお気に入りの絵画を数枚選び、記念に持ち帰りました。

◉ 懇親会　18:00～20:30

参加者は5名で、小笠原さんの司会･進行と乾杯の音頭で、和食料理を堪能しながら始まりました。

野里支部長の出席者への謝辞に始まり、校友会誌「かまた」に同封されていた「青森県支部だより」の紹介、昨年度の通常総会の報告、千葉学校長からの手紙の紹介などがあった。次に事務局からの学校紹介用リーフレットの報告では、参加者は大きく様変わりした母校に驚いていました。気心が知れ合った会員同士で、当時の授業風景と恩師の思い出、狭いアパート部屋での友人との語り合い、情報処理関連の勉強不足、当時の学生運動に参加した思い出、学園祭の予算折衝の苦労話、電子技術の発達の速さと日本の技術の海外流出、最近の話題になっている中国、韓国との関係悪化およびオスプレイ沖縄配置、地球温暖化など幅広い話題で更に会は盛り上り、最後に集合写真を撮り、会を終えました。

校友会「がんばろう宮城 激励会」報告

日時：平成24年11月17日(土)18:00～21:00　　場所：仙台市「かこいや 仙台駅前店」









◉ 激励会

○出席者への謝辞　○激励会開催の経緯

○東日本大震災の復興支援

◉ 懇親会

出席者は10名で、千葉さんの乾杯の音頭で会が始まった。話題は、やはり「東日本大震災」被災状況などとなり、「自宅と店舗をすべて津波に破壊された」「津波が逃げる背後に迫り命辛々逃げた」「自動車内に閉じ込められたが奇跡的に助かった友人」「流される家の屋根に掴まって助かった友人」「女川町と陸前高田市の被害状況」「借り上げ住宅と仮設住宅の苦労生活」「ボランティア支援活動」などと、当時の凄まじい被害状況などが出席者全員の脳裏に甦っていました。

その他の話題としては、「学校周辺の変わり様」「学園祭の思い出」「今と昔の修理マン技量の違い」「東京の大学受験会場までJRの好意で車椅子受験した娘さん」「量販店と個人家電店の経営方針」「真空管を壁にぶつけて遊んだ思い出」「ぶどう･ラズベリー･イチジクなどの自宅栽培」」「クルミの上手な割り方」「太陽光発電と地熱発電」「メタボリックにひっかかった」「NHKドラマに出演していた大物女優さんのタクシー券で帰宅した」などと話題には事欠きませんでした。

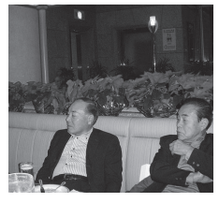
最後に村上さんの中締め後に集合写真を撮り、会を終えました。

校友会「富山県支部懇親会」報告

日時：平成24年12月1日(土)17:30～　　場所：富山市「ANAクラウンプラザホテル富山」







1.開会挨拶　石黒 支部長(司会･進行)

◇支部長挨拶　◇出席者への謝辞　◇支部活動報告

2.校友会事務局挨拶･報告

◇自己紹介　◇出席者名簿の確認･訂正

◇リーフレットによる学校の現状報告

◇校友会ホームページの紹介

3.懇親会

店内にクリスマスツリーやサンタクロースの人形が飾られ、クリスマスの雰囲気たっぷりのホテルのカフェで、懇親会を開催しました。

ブッフェでは、地元富山産の野菜、富山湾の魚介、肉料理に富山ブラック、デザートにはチョコレートファウンテンを楽しみながら和やかな雰囲気で宴は進みました。参加者の自己紹介では、学生当時の蒲田での生活、卒業してから今日までの仕事や現在の仕事等の近況を報告がありました。

今回は初参加の女性もおり、除雪機、井戸水、廃水の処理などの話題で盛上がりあっという間に予定の時間が過ぎてしまいました。最後に集合写真を撮り、再開を約束してお開きとしました。

校友会「首都圏支部かまた祭参加事業」が開催されました!

日時：平成24年11月3日(土)16:00～17:00　　場所：蒲田校 3号館10階 31005階段教室







平成24年度校友会首都圏支部かまた祭参加事業を実施いたしました。今回の講演会は、公害工学科第5期卒業生の野口勝明様にお越しいただきました。「温泉トラフグのはなし」町おこし、海なし県の栃木県の温泉水でトラフグの養殖を成功させた詳細のお話をスクリーンを使い、わかりやすく解説していただきました。

その後場所を6号館の「フーズフー」へ移し、17:30～19:00で懇親会が行われました。懇親会ではトラフグの試食会もあり、懐かしい面々と盛り上がりました。





校友会ホームページ上の**「校友会全国支部ブログ」**および**「同窓会等のお知らせ」**で、各支部の活動報告、懇親会･親睦会報告、同窓会報告などの記事が掲載されておりますのでご覧ください。

校友会ホームページのアドレス　**http://www.kouyukai.net**



入学金免除制度

学校法人片柳学園の設置する学校（日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校、東京工科大学）卒業生子女、兄弟姉妹および孫又は在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度です。

該当する方は以下のいずれかの方法で用紙を取り寄せ、出願時に出願書類と共に提出してください。

兄弟姉妹同時入学の場合は、一人分の適用となりますので入学後に教育･学生支援部へ申請し、手続を行ってください。

※「入学金免除申請書」の受付は、平成26年3月31日までとします。

「各種資料請求用紙」にて請求

入学募集要項の
「各種資料請求用紙」にて請求
↓
教育･学生支援部より
「入学金免除請求書」を送付
↓
必要事項を記入･押印
↓
出願書類と共に教育･学生支援部へ郵送



WEB

日本工学院専門学校ホームページ
（www.neec.ac.jp）
↓
画面左側、「卒業生のみなさんへ」
↓
入学金免除制度説明ホームページ
（www.neec.ac.jp/graduate/ob.html）
PDFファイルにて
「入学金免除申請書」をダウンロード
↓
必要事項を記入･押印
↓
出願書類と共に教育･学生支援部へ郵送

「若きつくりびと 日本工学院卒業展2013」を開催しました!

平成25年2月15日～17日の3日間パシフィコ横浜にて“若きつくりびと 日本工学院 卒業展2013”が開催されました。今年度は昨年よりも開催ブースを広げ、さらに大規模になりました。期間中に文部科学省生涯学習政策局室長、大田区長、蒲田･八王子両校の校友会会長などにもお越しいただきました。3日間で総計2万人を越える来場者がありました。また、初日には合同企業説明会が実施され、平成26年3月卒業予定の蒲田校･八王子校の学生達が150社以上の企業様と一同に会しました。皆、真剣な眼差しで企業担当者様の説明を熱心に聞いていました。別の会場では各カレッジ学生による素晴らしい作品の展示、日頃の教育成果を取りまとめた発表会、資格取得者の表彰等様々な形で教育成果を発表していました。また、産学協同プロジェクト発表、高校生ダンスコンテスト、公開録音などのイベントも同時に行われ、会場に華を添えていました。今年は、校友会から在校生達の学習意欲と創作意欲を高めていただく為に校友会会長賞を贈ることに決め、カレッジ毎の優秀作品（優秀学生、グループ）に対して表彰することにいたしました。最終日の2月17日に表彰式を行い、蒲田校校友会会長 桂田忠明様、八王子校校友会会長 金子英明様から該当学生にクリスタルトロフィーが授与されました。表彰式後、学校長、校友会会長らは将来の飛躍を目指す若者達とともに記念写真を撮影いたしました。





















若きつくりびと
日本工学院 卒業展2013

校友会は“若きつくりびと”達に積極的な支援をします。

かまた題字作家紹介



本校校友会誌の表紙題字は人間国宝の芹澤銈介（セリザワ ケイスケ）先生の筆によるものです。先生は本校1号館、6号館東側に流れる呑川の上流約150mに架かる馬引橋近くに、昭和9年から居を構えられ、爾来50年にわたって蒲田の地で型絵染の創作活動に没頭されておられました。昭和42年（1967年）10月発行の日本電子工学院研友会（校友会の前身の名称）会誌第2号以来表紙を飾っています。

芹澤 銈介 先生　略歴

明治28年（1895）静岡市に生まれる。
大正 5 年（1916）東京高等工業学校図案科卒業。
大正14年（1926）朝鮮の旅に出て京城及び慶州仏国を訪れる。往路、船中にて「大調和」誌の口絵及び柳宗悦氏の「工芸の道」に感動、生涯の一転機となる。
昭和 3 年（1928）沖縄紅型に感銘を受ける。
昭和 6 年（1931）雑誌「工芸」が創刊され、その表紙を一年間受持つ。その型染布表紙は装幀の仕事への端緒となる。
昭和 7 年（1932）国画会会員・川端康成「雪国」装幀。
昭和 9 年（1934）東京蒲田町に移る。初めて仕事場に恵まれる。
昭和13年（1938）柳宗悦氏他民芸同人と共に沖縄に渡り紅型の技を受ける。
昭和20年（1945）型染めカレンダー創始。
昭和24年（1949）女子美術大学教授となる。
昭和31年（1956）型絵染で重要無形文化財保持者（人間国宝）の指定を受ける。
昭和38年（1963）大原美術館工芸館第二期の棟方・芹澤両館落成。
昭和41年（1966）スペインのバルセロナにあるカタルーニャ美術館を訪れ、永年の念願を果す。その程復途上、エジプト、トルコおよび欧州各地を巡遊。紫綬褒章を受ける。
昭和51年（1976）文化功労者となる。フランスの国立グラン・パレ美術館において「芹澤介展」開催。
昭和58年（1983）フランス政府から芸術功労勲章を贈られる。
昭和59年（1984）4月5日死去（享年89歳）。

個人情報保護についての取組み

日本工学院専門学校校友会（以下校友会）では、個人情報保護法に基づき会員の個人情報の保護について、以下の取組みを実施しております。

●校友会が保有する個人情報の適正な取扱いをするために、個人情報の保護に関する規程を定めました。
●会員の個人情報は、必要な情報のみを適正かつ公正な手段によって収集させていただいております。得られた個人情報は、校友会誌「かまた」の発送ならびに学校法人片柳学園日本工学院専門学校および姉妹校（以下学校）からのお知らせを発送する際に利用いたします。また、会員に対する校友会窓口（koyukai@neec.ac.jp）を明示し、会員からの連絡が速やかに受けられるように致します。
●校友会では、会員よりいただいた個人情報を適切に管理し、会員本人の同意がない限り、校友会以外の第三者に対する個人情報の提供は致しません。
●個人情報の取扱いを含む業務を委託する場合は、受託者との間で契約により個人情報の再提供・漏洩などをしないよう義務づけを致します。
●会員が自己の個人情報に関して、開示・修正・変更等を希望される場合には、校友会窓口（koyukai@neec.ac.jp）までご連絡いただければ、迅速に対応致します。
●校友会では、上記の項目について、見直し・改善の必要が発生した場合には、適宜対応していきます。

先生から一言　学科から卒業生へ

マンガ・アニメーション科



マンガ・アニメーション科、そして懐かしの総合アニメーション科の卒業生の皆さんお元気でしょうか?お久しぶりです!内田です！ 2000年に総合アニメーション科としてスタートしたこの学科も早いもので14年たちました。1期生の学生だった斎藤君がいま僕の隣で教員として頑張っていますが、彼も30歳で昨年結婚しました。（ちなみにこれを書いている内田については残念ながら何も報告がありません、、、）卒業生の方からも結婚や出産の報告をちらほら受けています。そう考えると右も左もわからず我武者羅に走り回っていたこの学科も大分と成熟してきたなと思います。そんな成果か、ここ最近のニュースとして卒業制作のアニメ作品が色々な賞を頂いています。昨年の東京国際アニメフェアのアワード「第12回東京アニメアワード」では「シャケちゃん」という作品がモード・フィルム賞を頂きDVD販売されます。また、ASIAGRAPH2012では5作品が入賞しそのうち3作品は最優秀作品に選ばれるといった活躍を見せています。そしてこの冊子がお手元に届くころにはお台場の日本科学未来館でサンダーバード博というイベントが開催されていると思います。そこにも学生作品を出展していますので、お時間がある方は是非後輩の作品を見てあげてください。また11月2日、3日はかまた祭が行われそこでも作品展示を予定しております。卒業生も多く来場しますので是非お越し下さい。後輩たちも頑張っています、卒業生の皆さんも大変な毎日と思いますが、蒲田から皆さんの活躍を願っております。

CGクリエイター科



マルチメディア科CGコース、コンピュータグラフィックス科、コンピュータグラフィックス科三年制、クリエイティブラボラトリー科CGラボ、CGクリエイター科卒業生の皆様お元気ですか。日本工学院のCG教育を担う本学科はマルチメディア科CGコースから始まり、名称を変更しながら現在はCGクリエイター科（二年制）とクリエイティブラボ科CGクリエイターコース（四年制）の2学科で頑張っています。来年度からはこの2学科を統合してCG映像科（三年制）となります。かつて5号館の1階に実習室“デジタルラボラトリー”を構えていた本学科は8号館を経て平成22年度より新3号館の8階に移りました。場所が変わっても“ラボ”の愛称で親しまれ、室内も5号館の頃の面影を残したレイアウトになっています。今も昔も学生達は変わらずアニメやゲームや映画好きで、毎日、放課後開放で作品制作に励んでいます。

【教職員】写真左から ●細川 一弘　●阪元 彩　●佐野 雅博　●鈴木 靖生　●金光 拓也

電子・電気科



卒業生の皆さんお元気ですか。旧電子工学科、電気工学科、電気工事科は学科名を電子・電気・CAD科～電子・電気科と変えて7年目となりました。学科名は変わっても諸先輩方から受け継いだ伝統は今も脈々と受け継がれています。
現在はそれぞれコースという形で存在しており、認定資格や卒業後の進路は大きくは変化していませんが、校舎が新しくなったとともに教員の顔ぶれもかなり変わりました。
本誌でご案内しておりますとおり、今秋には同窓会を実施いたします。歴任の先生方にもご参加いただく予定ですので、旧交を温めるとともに母校の現在の様子を確かめにおいでください。

【現在の教員】
●川村 公二　●横山 重明　●佐藤 良純　●渡邉 和之
●長須 俊浩　●本田 堅一　●内田 寿彦

環境・バイオ科



卒業生の皆さん、お元気ですか。本学科も設置されてから40年を迎えます。昭和47年に公害工学科として設置されてから環境工学科（昭和57年）、環境科学科（平成3年）と学科名を変更して、平成19年35期で一旦、ピリオドを打ちました。平成19年4月にバイオニクス科として装いも新たに生まれ変わりました。その後、バイオテクノロジー科（平成21年）、環境・バイオ科（平成22年）と変遷し、現在に至っています。現在の1年生が8期生です。環境・バイオ科は、2年次から環境コースと化粧品コースの2コースに分かれ、それぞれの専門を学んでいます。現在の教員は4名で、公害工学科から勤めている先生は1名になってしまいました。40年間の伝統を守りながら、約4000名の卒業生を社会に送り、それぞれの分野で活躍されていることと思います。出来れば、皆さんの頑張っている様子をお知らせ下さい。環境コースで自慢できるのは実験です。特に水処理法の一つである、微生物を用いる活性汚泥法の維持管理技術を学ぶ実験です。これは、公害工学科から環境・バイオ科まで約40年間、水処理をする微生物が現在でも活躍しています。近くにおいでの際は、微生物の様子を見に立ち寄って下さい。

【現在の教員】●川村 公二　●天野 正明　●森宮 乾　●片山 圭子　●海井 萌



～会員近況メッセージ～

お元気ですか?

全国から、海外からこの1年間に、校友会事務局に届いた会員の皆さんの近況報告。

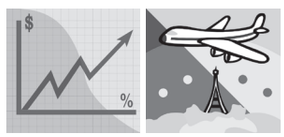
思わぬ名前を見つけて、懐かしい顔や声が思い浮かんだり、その元気そうな様子にほっと胸をなでおろしたり･･･。

このコーナーが、そのような温かい出合いや思いを多くの皆さんにお届けできたら幸いです。なお、誌面の都合で掲載できなかったお便りもありましたことをおわびいたします。

氏名(旧姓) 学科／期 勤務先 住所(都道府県)の順で表示しています。 [順不同]

鈎流 章 電子工学科科 第32期生
広島県

55 歳で早めのリタイヤをして4年になろうとしています。
普段は趣味程度にパソコンの前に座って、株· FXのトレードをながら、年に4回くらいは好きな海外旅行を楽しむ毎日を送っています。



吉田 均 サービス技術科 第32期生
東洋製作所 千葉県

本年2月に、26年間務めた会社を辞め、初めての失業を経験、今現在、前職の経験を生かし、電気機器の組立の仕事に就いています。

関 博美(旧姓：近藤) 放送制作芸術科 第13期生
東京都

放送作家として、ほぼ仕事漬けで生きてきましたが、30代の後半で同業の主人と結婚。二人の子供に恵まれ、今では、子育て中心の毎日です。仕事は、フリーで細々と続けていますが、子供たちと一緒にまだまだいろいろな事にチャレンジしたいと思っています。

西川 雄一 情報処理科 第33期生
株式会社アイ·エス·ピー 神奈川県

2011年に結婚しました。今は、携帯電話のソフト開発に携わっています。同期の皆さん、お元気ですか?

板東 恵(旧姓：塚本) 総合アニメーション科 第18期生
神奈川県

寿退社をし、結婚しました。同級生のみなさん、お元気でしょうか?
また、お会いしたいです!!



金城 諭 メカトロニクス科 第1期生
ピーエムエス 沖縄県

こんにちは、卒業後東京で7年勤め沖縄へ帰郷し、現在の会社でSEとして働いています。

笠原 俊幸 音響芸術科 第5期生
WOOD-WINDS COMPANY 静岡県

WOOD-WINDS COMPANYという屋号で個人事業でPAの仕事をしています。このご時勢でなかなか順調とはいきませんが何とかやってます。音芸5期のみんなにも会いたいですね。覚えてる方はぜひ連絡をください。kasapon@za2.so-net.nejp

杉村 忠彦 音響芸術科 第6期生
BS-TBS 東京都

BS-TBSの放送実施部でデスク業務に就いております。
日本工学院時代の友人との交流も残っており、充実した毎日を送っています。

生田目 昇 公害工学科 第8期生
株式会社ダイワ 神奈川県

入社当時は、水質分析に従事していましたが、現在は作業環境測定士として25年間やっています。

室井 勉 環境工学科 第11期生
クボタ環境サービス株式会社 東京都

環境工学科のみなさんお元気ですか?かなりくたびれて来ているけど私は元気ですよ。転勤族なので再び都内に戻ってきましたが、勤務地はなぜか北海道です。クルマさえあれば不便ないですが、私のはFR車なので雪が降るこれからが不安です。あの頃のバイク仲間はまだ乗ってるかなぁ。当然私は乗ってますよ。
それでは、ご安全に!

高尾 紀一(旧姓：佐野) 電気工事科 第20期生
株式会社ケイテイエス 千葉県

電気工事科卒業ですが、計装会社、電気工事会社と転職し、現在はピルメンテナンス会社に勤めています。病院の電気主任技術者としてまだまだ勉強の日々を送っています。

鈴木 健司 ソフトウエア科 第8期生
北好間郵便局 福島県

現在60歳になり同期で連絡を取り合っているのが、京浜寮の同室だった佐井君と同じクラスの三堀哲男君です。40年前のことがいまでも思い出されます。蒲田駅周辺もずいぶん変わったでしょうね。クラス会があれば教えてください。このホームページがあることをしりませんでした、是非同じ同期の方とお会いしたいものです。

熊上 秀美 ソフトウエア科 第14期生
福島県

私は福島県の浪江町に居住しておりましたが去年の東北大震災による原発事故で福島市の方で避難生活を余儀なくされ借上げ住宅で生活しております。いつ故郷に戻れるのか分かりませんが希望を捨てないで頑張っています。
友人から最近福島で校友会が行われた事を聞き住所変更をしておかないと連絡が無いとアドバイスされ今回住所変更した次第ですので宜しくお願い致します。

川村 晴義 電子工学部 第20期生
滋賀県

昨年9月でリタイアし、滋賀の家と山口の実家を行き来しながら、滋賀ではウォーキングを、山口では畑仕事をしています。健康にも恵まれ、時々は旅行を楽しみながら、快適な“毎日が日曜日”を過ごしています。

峯村 理雄 電子工学部 第20期生
長野県

学校を卒業後44年ほどの会社勤めを終え、年金生活をしています。地区の役員や農作業、趣味など、毎日忙しく過ごしています。

清水 佐幸 テレビ専門部 第13期生
インフォメーションネットワーク 岐阜県

インフォメーションネットワーク(略:IMG)の代表取締役会長になりました。少し楽になりました。よぉ～し、あそべるぞ～。

今戸 亨 臨床工学科 第28期生
東京都

一人暮らしを始め、クリニックで勤務しています。

穂積 晋一 電子工学科 第47期生
神奈川県

皆さん、お元気ですか? 私は出世しないものの元気にやっています。最近は、仕事は程々にして、ラグビートップリーグに昇格したキヤノンイーグルスの応援にハマっています。

畠山 純子 立体製図科 第3期生
岩手県

岩手山の麓で、のんびり絵を描きながら自然の中で家族と暮らしてました。



神山 裕之 CAD設計製図科 第25期生
協和シナックス 東京都

18年前の当時は、埼玉の外れから2 時間以上かけて通学をしておりましたが、初めのうちはその遠さも相まって中々馴染めず、蒲田は第二の地元とはなり得ませんでした。しかし何の因果か、就職した職場の出向先の事務所が、15年の時を経て、赤坂から渋谷、渋谷から平和島と遷移していき、それまで地元からだった通勤もさすがに辛くなり、第二の生活拠点を、現在の職場に近い蒲田周辺へと移しました。しかし時の流れは残酷で、街の景色だけでなく母校の面影すら消していこうとしています。
(絶えず進化するのがこの学校の特徴とも言えますが…)
もうあの頃の蒲田では無いんだなあと、色々な変遷に寂しさを覚えながら、ふと思い立って、学校のページを開いて見ると一･･
なんと担任だった教員の方がまだいらっしゃるじゃえよいですか、!
何人もの生徒を送り出してきた先生からすれば、忘れられた一人かもしれませんが、まだ、自分の通った証があることに安堵しました。
それではと、自分ももう一歩、この学園に踏み込んでみたい気持ちが沸き、今回投稿させていただきました。
会誌を見た同期生と再会できるのを楽しみにしています。
”オイナリ師匠”に聞き覚えのある人、出て来なさい!

今井 修 電気工学科 第1期生
㈱柳生商会 東京都

還暦を過ぎ、アルバイトで仕事をしてます。現役時代は広く世界（アフリカ、ヨーロッパ）へ技術研磨を武器に貢献しました。技術を磨いた経験（当時の電子工学部と電気工学部、両方で学びました）が今でも輝いてます。人生健康に留意して新たな技術でチャレンジし頑張ってます。

近藤 浩光 情報処理科 第27期生
東京都

年齢を重ねると若い頃のことが懐かしくて、このページに辿り着きました。皆元気かな。

名城 克己 情報処理科 第20期生
システムスペースパソコン教室 沖縄県

茨城県日立市より帰郷してから17年目になります。再就職には結構大変でしたが現在はパソコン教室をなんとかやっています。



平井 康美 公害工学科 第9期生
北海道

公害工学科9期卒業の同級生の皆さんお元気でしょうか?卒業後就職した会社で、今年の春に31年目を向かえます。学校で習った環境分析の仕事をしております。昨今は技術の進歩が速いので、新しい分析機器の操作が、中々覚えられなくなってきました。年齢にも負けず頑張っていきたいと思います。

工藤 隆志 公害工学科 第8期生
自営業 埼玉県

同期に卒業された方お元気ですか? 同期の方のご連絡先等がわかれば幸いです。

祝田 康雄 電子工学科 第21期生
北海道

還暦を迎えて22年間勤務した会社を退職し今、身障者能力開発校でプログラム設計科2年過程に在籍し、60才の手習の勉強を始めています。

藤島 敏郎 放送制作芸術科 第7期生
フリーカメラマン 福岡県

九州の福岡でフリーカメラマンとして活動しています。



番口 榮吉 電気工業科 第15期生
石川県

年金生活者です。時々災害対策会話がある時に電気火災や感電防止の基本的な対応等、自分の命を守ることを念頭に話し合うことがあります。

小林 桂子（旧姓：髙橋） デザイン科 第15期生
東京都

たまたま実家に帰ってきて“かまた”を発見!! 毎年だまって捨ててくれていたようです…。みんな元気ですか? かまた祭行こうよ!

河原 篤 臨床工学専攻科 第5期生
府中医王病院 東京都

臨床工学士として病院で働いています。

岩間 敏彦 映像科 第5期生
長野県

信州に移住しました。NPO法人を主宰しながら、地元に住んで都市の仕事をするライフスタイルを実践中です。

國京 克彦 マルチメディア科 第1期生
泉放送制作 東京都

CGコースにいましたが、なぜかテレビの制作をしています。今はテレビ東京の報道局で気象担当です。



三田 毅 情報処理科 第27期生
リコーテクノシステムズ㈱ 東京都

情報処理科27期のみなさんお元気ですか? 私たち夫婦は元気です。

小口 康人（旧姓：伊藤） 放送技術部 第4期生
埼玉県

モトローラ社勤続25年定年退職し、早15年過ぎ通信業界の進歩に驚いています。「かまた」を楽しみにしています。

佐藤 和男 電子工学科 第37期生
吉玉精鍍㈱ 宮崎県

宮崎に帰ってきて約30年も経ち、今は半導体金型のメッキ等をしながら「かまた」が送ってくるたびになつかしく思い出されます。

石塚 秀規 環境工学科 第16期生
㈱セキシン 東京都

工学院で学んだ事、今でも仕事に役立っています。

三田村 憲治 電気工学科 第31期生
福井県

現在は福井に帰ってきました。コンビニ等で働いています。

石川 真太郎 放送制作芸術科 第14期生
㈱放送技術社 長崎県

40過ぎても現役カメラマンですが、最近は老眼が入ってきてピントが甘くなってきました。そろそろ卒業か?

辺見 美津希（旧姓：上路） 情報処理科 第47期生
神奈川県

卒業してすぐに結婚しました!
今は6才と4才の
2児の母となりました～。



福岡 淳 メカトロニクス科 第7期生
ルネサスエレクトロニクス㈱ 東京都

メカトロニクス科7期、同期のみなさんがんばっていますよね。いろいろと、とにかく元気でいきたいです。

角田 正一 電子工学科 第26期生
エフエムかしま市民放送 茨城県

いつも校友会誌ありがとうございます。卒業してから40年になります。大きくなった母校を一度見てみたいと考えています。

西巻 幸男 公害工学科 第1期生
中央電気工業㈱鹿島工場 茨城県

昨年11月に新築し、移転しました。2軒目です。来年3月には定年を迎えます。卒業して39年。早いものです。

福田 美里 環境科学科 第35期生
神奈川県

希望する分析業務の会社に入って早くも5年。今では様々な仕事をまかせてもらえるようになりました。職場では素敵な方に巡り会い、10月には新居での生活も始まり充実した日々を送っています。

菊池 悠貴 情報学科 第13期生
ハイアール三洋エレクトリック㈱ 群馬県

今まで勤めていた光学機器メーカーでの制御プログラムから家電の設計に転職しました。新しい事だらけでとまどいも多いですが、何とか頑張っています!

大田黒 俊一 電算ハードウェア科 第6期生
島根県

昨年末、還暦、定年を期に横浜から出雲の海端の小さな集落にIターンいたしました。



渡辺 一雄 放送制作芸術科 第5期生
日テレ・テクニカル・ソリューションズ 東京都

私が在学していた頃、工学院は最新の校舎と設備を誇っている学校であったと思っていました。それが今、大校舎と広大な庭園のキャンパスとなりました。私はこれが全てではなく、今後もさらなる発展があるものだと思っています。

森谷 謙一　CAD設計製図科 第15期生　東京都

蒲田には最近妻と飲みにいきます。ID15のみんなともまた飲みたいですね。

大川 義明　情報技術科 第10期生　千葉県

松戸に引っ越しました。みなさん元気にしてますか?

飯島 竜一　情報処理科 第31期生
㈱トノックス　神奈川県

東京の会社から平塚の会社へ転職し、頑張っています。



鈴木 伸二郎　電気工事科 第1期生　福島県

自宅から単身で栃木県に出稼ぎ中です。太陽光発電整備の仕事で毎日忙しいです。しばらく続くものと思われます。

加賀 直美　公害工学科 第4期生　福島県

2011.3.11の震災・事故により今は茨城県に避難しています。昔の多摩川寮にいた多くの同期生から連絡・励ましをいただき、頑張って生活しています。私は双葉町住民ですが多くの皆様に感謝しています。

加藤 サツエ(旧姓：鹿又)　公害工学科 第6期生　千葉県

現在、大学生の息子2人の母親です。子供達を見ていると学生時代がとても懐かしく思われます。

会員近況メッセージでした!

心からご冥福をお祈り申し上げます。

校友会会員の次の方々の訃報が届きました。

川名 信夫さん	昭和48年	テレビ放送技術科	23期卒業		
浅見 貴世人さん	昭和49年	テレビ放送技術科	23期卒業	平成14年10月28日没	
登坂 和夫さん	昭和50年	テレビ放送技術科	25期卒業	平成24年2月29日没	
曲山 正行さん	昭和58年	テレビ放送技術科	33期卒業		
上村 義美さん	昭和48年	テレビ放送技術科	57期卒業	平成21年2月25日没	
竹内 俊介さん	昭和43年	テレビ専門部	11期卒業	平成24年8月25日没	
小西 利明さん	昭和43年	テレビ専門部	11期卒業	平成25年2月24日没	
塚本 太門さん	昭和48年	テレビ工学科	21期卒業	平成24年7月25日没	
町田 敏明さん	昭和59年	放送制作技術科	3期卒業	平成20年2月没	
坂田 英典さん	昭和55年	放送制作技術科	4期卒業	平成25年5月没	
小島 裕美さん	平成11年	放送メディア芸術科	23期	平成24年5月没	
谷　幸一さん	昭和58年	音響工学科	1期卒業	平成22年6月23日没	
矢口 洋志さん	昭和58年	音響工学科	1期卒業	平成24年9月3日没	
佐藤 有臣さん	平成10年	演劇スタッフ科	21期卒業	平成24年12月14日没	
高橋 啓二さん	昭和46年	ソフトコース	8期卒業	平成23年12月没	
青木 正博さん	昭和48年	ソフトウェア科	12期卒業	平成24年10月3日没	
庄司 俊紀さん	昭和58年	情報技術科	15期卒業	平成24年9月11日没	
星野 秀雄さん	昭和58年	情報技術科	16期卒業	平成24年5月没	
増田 勝則さん	昭和50年	情報技術科	17期卒業	平成24年2月没	
茂木 方恵さん	昭和59年	情報技術科	27期卒業	平成24年9月没	
岸　圭一さん	昭和63年	電気工事科	15期卒業	平成24年4月26日没	
瀬ノ尾 宏一さん	昭和47年	電気工学科	2期卒業	平成23年2月10日没	
小宮山 学さん	昭和48年	電気工学科	4期卒業	平成24年9月3日没	
仲間　卓さん	昭和48年	電子工学科	28期卒業	平成16年2月11日没	
森井 和義さん	昭和50年	電子工学科	32期卒業	平成17年没	
峰岸 日出男さん	昭和50年	電子工学科	33期卒業	平成24年9月没	
前川　隆さん	昭和55年	電子工学科	41期卒業	平成24年1月7日没	
小野　篤さん	昭和58年	電子工学科	44期卒業	平成24年8月没	
平尾 明久さん	昭和60年	電子工学科	46期卒業	平成23年9月11日没	
丹羽 剛士さん	平成5年	電子工学研究科	30期卒業	平成24年7月27日没	
清　次郎さん	平成2年	家電電子技術科	36期卒業	平成23年11月9日没	
森田 正人さん	昭和51年	公害工学科	3期卒業	平成23年5月12日没	
福永 尚載さん	昭和63年	メカトロニクス科	4期卒業	平成20年12月9日没	
吉永 博史さん	平成5年	医用工学科	9期卒業	平成24年2月20日没	
檜山 武士さん	平成7年	臨床工学科	11期卒業	平成8年没	
家木 克司さん	昭和51年	サービス技術科	20期卒業	平成24年11月16日没	
梅沢 芳夫さん	昭和34年	第一学部	23期卒業	平成24年9月3日没	

学校法人　片柳学園
日本工学院専門学校　校友会誌

かまた

学校法人片柳学園

日本工学院専門学校 教員募集のお知らせ

日本工学院専門学校では全学科にかかわる教員（正規職員･契約職員)･非常勤講師の募集をしております。ぜひ、卒業生の皆様のスキルを後輩の育成にお役立て下さい。

本校の教育理念にご賛同いただき、教育に熱意のある方のご応募をお待ちしております。

卒業後、実社会で経験され、身につけられた知識、技術及び社会人として必要なマナーを活かし、教育に熱心に取り組むことができる方を希望しております。

なお応募学科によって求めるスキル、募集資格等が異なりますので、詳細は下記のホームページをご覧下さい。

応募学科

全カレッジ　全学科

応募資格（教員）

年齢：40歳まで
（カレッジによって異なります。）

学歴：専門学校卒業以上

URL : http://www.katayanagi.ac.jp/recruit/index.html

※ホームページに掲載のない学科については下記までお問合せください。

◉お問い合わせ先

〒144-8655
東京都大田区西蒲田 5-23-22
日本工学院専門学校
教育･学生支援部　教員採用担当　宛
E-maill: takahac@neec.ac.jp
教育･学生支援部　高橋



学校法人片柳学園

大学でも専門学校でも
片柳学園なら多彩な進路が選べる！





実学主義ではぐくむ就職力　東京工科大学

蒲田キャンパス


デザイン学部


医療保健学部
臨床検査学科（2014年4月新設）／看護学科
臨床工学科／理学療法学科／作業療法学科



八王子キャンパス


メディア学部


コンピュータサイエンス学部


応用生物学部

東京工科大学
〈蒲田キャンパス〉〒144-8535 東京都大田区西蒲田 5-23-22　0120-444-925
〈八王子キャンパス〉〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1　0120-444-903
●スマホ･PC http://www.teu.ac.jp/　●mobile http://kam.teu.ac.jp/

東京工科大学で学ぶ〈学士〉取得
日本工学院から東京工科大学へ編入〈専門士〉＋〈学士〉取得
日本工学院で学ぶ〈専門士〉〈高度専門士〉取得

専門力＋人間力で就職力アップ　日本工学院










クリエイターズカレッジ
放送･映画科
声優･俳優科
マンガ･アニメーション科四年制 ◆※
マンガ･アニメーション科
ゲームクリエイター科四年制 ◆※
ゲームクリエイター科
CG映像科(3年制)☆

デザインカレッジ
グラフィックデザイン科(3年制)
インテリアデザイン科(3年制)
プロダクトデザイン科(3年制)

ミュージックカレッジ
ミュージックアーティスト科
プレイヤー/ヴォーカリスト/ミュージッククリエイターコース
コンサート･イベント科
レコーディングクリエイター科
ダンスパフォーマンス科 ●

ITカレッジ
ITスペシャリスト科(4年制) ◆※
システム/モバイルアプリ☆/ネットワーク/セキュリティ専攻
情報処理科
パソコン･ネットワーク科
情報ビジネス科

テクノロジーカレッジ
ロボット科 ●
電子･電気科
一級自動車整備科(4年制) ●◆※
自動車整備科 ●
環境･バイオ科 ●
応用生物学科 ●
建築学科(4年制) ◆※
建築設計科
土木･造園科 ●
機械設計科

医療カレッジ
鍼灸科(3年制) ●
柔道整復科(3年制) ●
臨床工学専攻科一年制 ●
診療情報管理士科(3年制)
医療秘書･事務科

スポーツカレッジ
スポーツトレーナー科三年制 ●
スポーツトレーナー科 ●
スポーツ健康学科三年制 ●
スポーツコーチング+スポーツインストラクター/スポーツビジネスコース
スポーツ健康学科 ●
スポーツコーチング/スポーツインストラクター/スポーツビジネス/サッカー(男･女)/テニスコース
こども学科 ●
幼稚園教諭/保育士コース

☆2014 年度新設　◆編入制度あり　※高度専門士付与学科　●日本工学院専門学校のみ設置　●日本工学院八王子専門学校のみ設置

日本工学院
日本工学院専門学校　〒144-8655 東京都大田区西蒲田 5-23-22　0120-123-351
日本工学院八王子専門学校　〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1　0120-444-700
●PC http://www.neec.ac.jp/　日本工学院　検索
姉妹校：日本工学院北海道専門学校